

修士論文2022 年度

メディアフレームの政治的世論形成に対する効果 ー 2019 年香港デモを事例として

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

田鐘慧

メディアフレームの政治的世論形成に対する効果
ー 2019 年香港デモを事例として

論文要旨

本研究では、2019 年香港デモに関する中国本土のメディアフレームとその政治的世論形成に対するフレーム効果を明らかにした。分析には、2019 年 6 月 13 日から 10 月 23 日まで、新聞聯播、共青团中央、ケーブルテレビが動画プラットフォームに投稿した合計 456 本の動画内容や共青团中央に対する 42 万件のコメントをデータにし、テキストマイニングによって単語頻度分析と共起頻度統計を行い、フレームとコメント欄を比較することで視聴者による中国本土の公式メディアフレームに対する反応を把握することができた。分析にあたって、既存研究を踏まえ、政治的信念によるメディアフレームの影響経路に着目し、香港事件において矛盾のように見えた中国本土の人の個人的イデオロギー、特に中国本土のメディアフレームにおける「民主」の位置付けに焦点を絞って検討した。中国国民の政治意識がいかにメディアにより操作され、影響されたのかを明らかにすることによって、こうしたフレームの危険性に対しても議論した。

第 1 章においては、研究に至る経緯と研究目的を明確にした。2019 年の香港抗議デモ運動は、中国本土の人々の日常生活とは切り離された複雑な政治問題であり、それに対する世論の形成は個人的経験よりもメディアによる情報に依存する傾向にあると考えられる。特に、DPI2019 により、中国本土の人の 77% が民主主義が重要であると認識していたデータを踏まえ、彼らはなぜ自由を追求し、民主の向上を基本的な政治的願望とした 2019 年の香港デモに対して強く反対を示したかということが本研究の思考の原点である。そのため、本研究は、デモの発生から政治的世論に至るまで、メディアのフレーミング効果を考察することで政治的世論の形成におけるメディアの役割を明らかにすることが目的となる。

第 2 章において、これまでメディアフレーミング効果と権威主義国家におけるイデオロギー・政治意識に関する既存研究をレビューした。既存研究において、フレーミングは信念の重要性によって影響を与えるというフレーミング効果が多くの実証研究で検証されていた。また、中国人の政治意識に関して、多次元的なイデオロギー構造があることも多くの既存研究で指摘されていた。2019 年香港デモを事例として、中国本土のメディアフレームと個人的イデオロギーの関係性に焦点を当てることが本研究の特徴である。

第 3 章においては、分析に使用するデータと方法を説明した。本研究は合計 456 本の動画内容や 42 万件のコメントをデータにし、テキストマイニングによって単語頻度分析と共起頻度統計を行い、フレームとコメント欄の類似程度を観察する。

第 4 章において香港デモに関する放送内容分析を行った。テキスト分析の結果として、中国本土では国家外交の次元から議論を始め、常にデモの暴力性と社会安定の重要性を強調し、米国から警察のアジェンダのセッティングが見られるようになった。動画分析の結果として、現場映像の使用を最小限へという、抗議的スローガンやポスターの内容を提示しない傾向にあったことがわかった。態度の表現において、「支持・非難」の枠組みが多く使用されたことが確認された。

第 5 章において、「共青团中央」に対する 42 万件のコメントをデータにし、コメント欄の内容分析を行い、メディアフレームとコメント分析の結果を比較することでフレーミング効果が確認された。コメント欄では、国家レベルでの思考枠組が見られ、メディアフレームと一致しており、有効なアジェンダセッティングが確認された。また、「美国（米国）」から「警察」への世論方向の転換時点が同じく 8 月だった点から、世論方向に対する誘導の効果が見られた。政治的イデオロギーについて、民主や自由といった価値観への信念よりも、ナショナリズム側面でのコメントが顕著に多かったが、「民主」や「自由」を語る際には中国と西方を区分する言語使用特徴から見ると、政治的イデオロギーよりもナショナリズム側面から報道内容に反応したのが特徴であると考えられる。

以上の分析から、本研究は、中国本土メディアの 2019 年香港デモを報道する際に設定されたフレームの様

子やそれに対するネット上の世論反応を示し、思考枠組や世論の方向性に対するメディア側からの有効な設定が検証された。また、民主など政治価値観に対する世論特徴から、中国本土の人は香港デモをナショナリズムの次元で受け取る傾向のあることが考えられる。

キーワード

1. 香港デモ、2. メディア、3. フレーミング効果、4. 世論、5. イデオロギー

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科
田鐘慧

Abstract of Master's Thesis Academic Year 2022

Media Framing Effects on Political Public Opinion Formation:

A Case Study of the 2019 Hong Kong Demonstrations

Summary

This study identifies mainland China's media frames on the 2019 Hong Kong demonstrations and their frame effects on the formation of political public opinion. For the analysis, I used data from a total of 456 video contents and 420,000 comments on the Communist Party Central posted on video platforms by Xinwenlianbo, Communist Party Central, and cable TV from June 13 to October 23, 2019, and conducted word frequency analysis and co-occurrence frequency statistics by text mining, and By comparing frames and comment sections, I was able to understand viewer's reactions to official media frames in mainland China. In my analysis, based on existing research, I focused on the influence path of media frames by political beliefs, and I focused on the state of perception of personal ideology, especially "democracy" among mainland Chinese people, which appeared to be contradictory in the Hong Kong case.

In Chapter 1, I clarified the background to the study and the purpose of the study: the Hong Kong protest movement in 2019 is a complex political issue that is disconnected from the daily lives of Mainland Chinese people, and the formation of public opinion on it tends to rely more on media information than personal experience. In particular, based on the data that 77% of Mainland Chinese people perceived democracy as important by DPI2019, why they strongly opposed the 2019 Hong Kong protests, with the pursuit of freedom and the enhancement of democracy as a fundamental political aspiration, is the starting point of this study's thinking. Therefore, the purpose of this study is to clarify the role of the media in shaping political public opinion by examining the media framing effect from the onset of the demonstrations to political public opinion.

In Chapter 2, I have reviewed existing research on media framing effects and ideological and political attitudes in authoritarian states. In the existing studies, framing was influenced by the importance of beliefs, and the framing effect was tested in many empirical studies. Many existing studies also pointed out that there is a multidimensional ideological structure regarding Chinese people's political consciousness; using the 2019 Hong Kong demonstrations as a case study, this study focuses on the relationship between media frames and personal ideology in mainland China.

In Chapter 3, I described the data and methodology used in the analysis. This study used a total of 456 video contents and 420,000 comments as data, and performed word frequency analysis and co-occurrence frequency statistics by text mining to observe the degree of similarity between frames and comment sections.

In Chapter 4, I conducted a broadcast content analysis on the Hong Kong demonstrations. As a result of the text analysis, I saw a setting of the police agenda from the U.S. to mainland China, starting the discussion from the dimension of state diplomacy, has always emphasized the violent nature of the demonstrations and the importance of social stability. As a result of the video analysis, there was a

tendency to minimize the use of on-the-scene footage and not present the content of protest slogans and posters. In the expression of attitudes, it was observed that the "support - reprimand" framework was often used.

In Chapter 5, the Fleming effect was confirmed by comparing the results of the media frame and comment analysis with data from 420,000 comments on the "Communist Youth League Central" and a content analysis of the comment sections. In the comment section, national-level thought framing was found, consistent with the media frame, and valid agenda-setting was confirmed. In addition, the fact that the shift in the direction of public opinion from "beautiful country (the U.S.)" to "police" occurred in August, also confirms the guiding effect of the media frame on the direction of public opinion. In terms of political ideology, there were significantly more comments on the nationalism side than on the belief in values such as democracy and freedom. However, when talking about "democracy" and "freedom," the language use characteristics that distinguish China from the West suggest that the respondents were more likely to respond to the content of news reports from the perspective of nationalism rather than political ideology.

Based on the above analysis, this study shows the frames set by the mainland Chinese media in reporting the 2019 Hong Kong demonstrations and the online public opinion reaction to them, and verifies the effective setting from the media side for the thought frames and the direction of public opinion. The public opinion characteristics of political values such as democracy suggest that mainland Chinese tend to perceive the Hong Kong protests in terms of nationalism.

Key words:

1.Hong Kong demonstrations, 2.framing effect, 3.public opinion, 4.ideology,5.Media

Keio University

Graduate School of Media and Governance

Tian Zhonghui

目次

第1章. 問題の所在と研究目的.....	6
第2章. 先行研究.....	8
1. フレーミング効果理論.....	8
2. 中国における国民の政治意識.....	9
3. 中国におけるメディア管理.....	11
第3章. 分析データと方法.....	12
第4章. 記事内容のフレーム分析.....	13
1. 分析の対象.....	13
2. 文字内容に対するフレーム分析.....	13
3. 動画内容に対するフレーム分析.....	23
4. 結論と検討.....	25
第5章. フレーム効果分析.....	27
1. コメント内容分析.....	27
2. メディアフレームとコメント欄の比較分析.....	30
3. 結論と検討.....	33
第6章. まとめ.....	35
1. 研究の結果.....	35
2. 考察および本研究の限界.....	35
3. 今後の課題.....	36
参考文献.....	37
謝辞.....	40
付録.....	41

第1章. 問題の所在と研究目的

香港は、中華人民共和国の半自治都市として高度に発展している。1997年において、香港はイギリスから中華人民共和国に返還され、返還後50年間一国二制度を維持することになった。現在、香港は中国の特別行政区(SAR)として知られている。2019年、香港政府により「逃亡犯条例改正案」を公開することを発端として、香港において一連の大規模な抗議社会運動が行われた。この法案は、香港の容疑者を中国本土に引き渡して裁判を行うことを可能にするものであり、中国本土の司法制度によって容疑者が不公平な裁判を受け、香港の独立した司法権が損なわれることを懸念して、香港民衆はデモ、集会、チャントなどの団体行動で法案への抗議を表明した。世界的に注目されたこの抗議デモは、中国本土でも大きな注目を集めた。

この抗議運動について、中国本土と香港の世論には大きい違いがある。まず、後述するように中国本土では、デモ運動の暴力性を強調して「香港修正波乱(香港暴力波乱)」と呼ばれることが多いのに対し、香港では、政治運動としての正義性を強調し、「修正反対デモ運動(反送中游行)」と呼ばれることが多かった。スローガンとして中国本土では「私も香港警察を支持する」や「I LOVE HONG KONG, I LOVE CHINA」というハッシュタグを使ったネット上の世論が多く見られ、香港では「FREE HONG KONG, REVOLUTION NOW(光復香港、時代革命)」や「#FightForFreedom」を使ったネット上の投稿が多かった。つまり、2019年の香港デモは中国本土市民に対して国家・権威・民主・自由等の政治的イデオロギーに深く関わっている社会運動であるが、同じ抗議デモに対して、中国本土では「暴力的・正義的」のような異なる解釈があると考えられる。

抗議デモ運動の結果として、香港2019年の選挙では、民主派が57%以上の投票率と80%以上の議席を確保し、2015年の投票率よりも17%の純増となり、大勝利を収めた(Ramzy, Yu and Bradsher, 2019)。中国の場合、ネット上で激烈的な愛国的輿論ブームを巻き起こし、数多くの中国本土の学者がこの事件をネットナショナルリズムの代表事例として取り上げて研究を行った。抗議デモ運動の激化により、中国本土市民の間では愛国的、権威主義的輿論が強まり、一方でデモ運動を実際に経験した香港市民の間では、民主派に対する支持が強まったと見られる。

また、2019年香港抗議運動の前後で、中国本土と香港の人々が自分たちの生きる環境の民主主義について異なる認識を持っていることが、認識された民主主義の赤字(Perceived Democratic Deficit)に関する調査で明らかになった。DPI2020(Democracy Perception Index 2020)調査には、53カ国から12万4000人の回答者が集まり、その中で、香港人の認識された民主主義の赤字は2019年から2020年にかけて25%から26%に増加し、中国本土の認識された民主主義の赤字は20%から11%に減少した。これは2019年香港抗議デモに起因するとは言えないが、中国本土にて全体的な認識の変化が起きていることを示唆することができる。同じ抗議デモに対して、中国と香港ではこれほど反応が違うのは一体なぜなのか。中国本土では2019年抗議デモ運動に対して強い権威主義的な傾向を示したが、2019年を経験した後は民主主義がより重要だと認識したのだろうか。

こうした違いは、中国本土と香港の人々の政治的価値観の違いだけで説明できないと思われる。なぜかというところ、中国人は権威主義と民主主義に対して複雑な認識と感情を持っている一方で、2019年香港抗議デモ運動は中国本土の人にとって特殊な政治的抗議行動であったからである。身の回りの抗議デモ運動についてであれば、2022年に上海にて行われた封鎖政策に対する抗議デモ運動のように、権威主義体制の国家の人々であっても、それぞれの政治的価値観に応じた見解を持っているはずだ。しかし、2019年の香港抗議デモ運動は、中国本土の人々の日常生活とは切り離された複雑な政治問題である。こうした自分で経験できない、そして複雑な政治事件に対する正確な判断は、人々が適切な情報にアクセスできることに依存しており、それはまた、人が情報に支配されやすいことを意味している。そこで本稿では、2019年香港デモ運動に関する報道は、人々の現実に対する理解に介入し政治的世論の形成に重要な役割を果たしたと推測する。

特に、2015年-2017年に行われたイデオロギー調査研究によって、後述するように中国本土の若者は自由

主義的な傾向を示し、他の年齢層より保守主義と権威主義に向かう傾向が弱まっている。しかし、2022年までに月間アクティブユーザー数が平均2億9400万人、平均ユーザー年齢22.8歳、18～35歳のユーザーが78%を占める中国の動画サイトBilibiliでは（Bilibili Inc,2022）、2019年デモに対する反対世論が非常に多かった。こうした若者でさえ、メディアの観点を当たり前のように受け取ったという現象が観察された。それゆえ、2019年香港デモに関する中国本土のメディアフレームとその効果を考察することが必要であると考ええる。

そのため、本研究では、2019年香港デモに関する中国本土のメディアフレームと政治的世論形成に対するフレーム効果を考察し、2019年香港デモ運動の主旨の一つであった「民主」に対する中国本土の認識状況を明らかにすることを目的とする。つまり、メディアフレームの分析であり、中国本土におけるイデオロギーの分析でもある。その手かかりとして、2019年中国本土・香港の香港抗議デモ運動に関する報道内容、特にデモ現場を素材として放送したテレビとネット上の動画報道内容を対象にし、内容分析を行い、フレームを析出する。また、コメント内容と比較分析を行い、メディアフレームは具体的にどのように人々の「2019年香港デモ」に対する認識を介入し、全般的な政治的輿論に影響を与えたのかを検討し、フレーム効果を考察する。

第2章. 先行研究

1. フレーミング効果理論

メディア研究者であり、メディアの「アジェンダ・セッティング」の効果提唱した Maxwell は、一般市民はメディアによって構築された現実には触れないと主張した (Maxwell McCombs, 2005)。このような現象は 2019 年香港抗議デモ運動の事例でより顕著に表れている。その理由は、中国本土の多くの人々にとって、日常生活の中で抗議デモを目撃することは極めて稀であり、関連する体験がほとんど蓄積されていないからである。また、2019 年香港デモについては、中国本土の人々がその場で体験することができなかつたため、彼らの香港に対する認識は、マスメディアのフレームに大きく依存していると言える。マスメディアがどのように報道し、どのように問題が構成され、どのように意味が作られるかを検証するには、フレーミング概念は世論におけるメディアの役割を理解する上で非常に有効であると言えるだろう。

メディアフレーム概念に関して諸説があるが、萩原滋の整理により、引用されることが多いのは下記の三つの定義である (萩原, 2007, p45)。

①シンボル操作者が、言説であれ、映像であれ、言説を日常的に組織化する際に依拠する認知、解釈、表象、すなわち選択、強調、排除に関する継続的なパターン (Gitlin, 1980, p7)。

②フレームは知覚された現実のいくつかの側面を選択し、それを伝達するテキストの中で際立たせるものであり、記述された項目に対して、特定の方法での問題の定義、因果的解釈、道徳的評価そして/または対処の推奨を促進するものである (Entman, 1993, p52)。

③報道内容に文脈を与え、選択、強調、排除、推敲によって争点は何なのかを示唆するような中心的な組織化のアイデア (Tankard, 1991, p10)。

フレームによって、どの情報が一次か二次かが決まる。Morley (1976) が言うように、「『基本的な概念的・思想的枠組み』を検討することが重要なのだ。事象が提示され、その結果、別の意味ではなく、ある支配的/主要な意味が与えられるようになること」が大切である。Hertog と McLeod (1995) は、フレームが事件の文脈を定義すると次のように述べている。「事件を解釈するために使用されるフレームが、どの情報が関係するかを決定する (したがって、何が無関係である) かを決定する」。2019 年香港デモを例にとると、デモが警察に対するデモ参加者の過剰な暴力という枠にはめられると、なぜデモ参加者がデモを始めたのかという理由、つまり逃亡犯条例という特定の政治課題への批判は関係ないと認識されるかもしれない。これによって、デモや抗議の理由に対する理解に異なる影響を与えるだろう。フレーミング効果 (Framing Effect) は、前述のフレーム、すなわち特定の問題の提示を通じて、世論の態度に影響を与えたり、変化させたりする可能性があるということである。フレーミングによって、オーディエンスは、イシューの特定の側面について、好悪の判断を形成させられることになる (Chong, Druckman, 2007)。

フレーミング研究では、フレーミングがどのように影響力を生み出すかについて、さまざまなモデルが提示されている。フレーミングは信念の重要性 (belief importance) によって影響を与えると主張する学者もいる (Nelson, 1997)。この考え方は、特定の視点にさらされたとき、人々が異なる信念と思想を比較できるようになることを示唆している。特定のメッセージを目立たせることで、人々は他の信念を無視するように仕向けられる。

さらに、Slothuus はフレーミングが信念の内容 (belief content) に影響を与えることもあると強調している (Slothuus, 2008)。フレーミングによってフィルターされた情報は、個人が考えたこともないような話題と信念との関連性に気づかせ、信念そのものを変化させる可能性がある。例えば、2019 年の香港抗議デモに対して中国本土メディアは、米国と香港デモがつながりを持っているというフレームに基づいて報道を行ったが、それがメッセージの受け手にどのような影響を与えたのかも議論すべき問題である。

実証研究において、フレーミング効果は、オーディエンスの態度の方向性の変化やその程度の変化によって測定されることが多い。フレーミング効果の強弱は、フレーム自体、オーディエンス、フレームが発生する

環境の3つの要因に影響される可能性がある。例えば、ニュースのフレームそのものの価値観は、認知反応 (Shah, 2004) や態度 (Schuck & de Vreese, 2006) に影響を与えることがある。ネガティブなニュースのフレームはポジティブなニュースのフレームよりも強い影響を与え、政治的知識レベルの高い人はポジティブなフレームに影響される傾向がある(de Vreese, 2011)。

フレーミング効果の実証研究は、特に政治的研究において多く行われている。例えば、米国の共和党と民主党は、政府支出の問題で二つのコミュニケーション・フレームに分かれ、両フレームが米国の世論に大きな影響を与えることが示されている (Jacoby, 2000)。フレーミング効果は欧米の民主主義国家に限らず、民主主義体制ではない国家においても、外的脅威の強化や民族主義的感情の扇動が自国民の支持を得るために用いられていると主張する学者もいる (Shen, 2007; He, 2007)。

以上の議論を踏まえ、本研究は、非民主主義体制国家におけるメディアフレームの効果に関する実証研究を補完することを試みる。2019年の香港デモでは、数多くのイデオロギー論争があり、中国本土メディアと香港メディアは情報の重要性和優先順位を独自に選択し、異なるニュースフレームを作り出した。特に、上記のような外部からの脅威と政治的統制の強化は、中国本土による報道に反映されていた。イデオロギー的な政治的事象が多く含まれる2019年の香港デモについて、メディアによるフレーミングがどのように世論に影響を与えたのか、またフレーミングがどのように世論の反応を誘導するように働いたのか、その詳細は補完される必要がある。

2. 中国における国民の政治意識

以上のように、フレーミングが信念の重要性和信念の内容に影響を与えることで人々の認識に影響を与えるとすれば、中国本土の市民はどのような信念体系を持って、どんな政治意識を持っているのだろうか。

2.1 信念体系・個人的イデオロギー

本研究では、さらにイデオロギーという政治的信念体系に注目し、ミクロレベルでイデオロギーに焦点を当てているため、概念化するときに「イデオロギーは、行動指向の信念システムであり、政治的行動を導き、刺激する包括的なイデオロギーである」という現代社会科学におけるイデオロギーの定義に従う (Andrew Heywood, 2002, p43)。

イデオロギーに関する研究は、民主主義体制を持つ国でしばしば行われる。中国などの非民主主義国では、この体制のもとで国民が独自のイデオロギーシステムを確立することは困難であると考えられることが多く、投票は政策決定に効果的に影響しないため、この問題はあまり調査されていない。しかし、Jason.Y.Wu と Tianguang Meng によると、彼らは、2015年夏に実施された「中国都市管理調査 (CUGS)」という公式調査データを使用し、中国国内の都市人口から無作為に抽出された3,513人の回答データを分析した。開かれた党派紛争が存在しない環境でも、個人はより体系的な政治的理解を得ることができることを示している (Wu&Meng, 2017)。また、中国の都市住民のイデオロギーには、政治的側面 (権威主義的・民主主義) と経済的側面 (左派・右派) があると示している。その中で、若者は高齢者に比べて、経済的に右派傾向 (自由主義) になり、保守主義と権威主義に向かう傾向が弱いという (Wu, Meng, 2017)。

より多くの研究者は「Political Compass」という自己評価サイトの歴史データを分析し、同様の結論に達している。その中で、Pan と Xu の研究は代表的で、中国人のイデオロギーには、経済的な左派と右派、政治的な自由主義と保守主義、ナショナリズムと非ナショナリズムという3つの次元があると主張している。(Pan & Xu, 2018)。また、同じくこのサイトの歴史データを分析した Ye Lu, Chu と Shen(2016)による研究でも、ほとんどの回答者が自由主義的な傾向を示し、メディア利用 (media use) や社会心理的要因 (social psychological factors) もイデオロギーと強く関連しているという。

2.2 「民主」に対する中国人の認識

イデオロギーモデルにおいては、民主主義と権威主義はしばしば相反するものとして捉えられる。しかし、

人々が民主主義と権威主義をどのように理解するかは認識の問題である。特に中国本土では、「民主」という言葉について下記のような複雑な認識がある。

まず、政治的背景として、民主主義は中国の社会主義の核心的価値観の基本要素であり、人民民主主義の発展は国家統治の近代化の基本要件でもある。中国共産党中央委員会は、第18回全国代表大会後に「社会主義協議民主主義の建設強化に関する意見」を発表した。そのため、中国は従来の「選挙民主」に加えて「協商民主」を民主の二つの軸としており、「選挙民主」と「協商民主」の関係性を考察した学者もいる(陳2005、孫2007;江口,2018)。特に、江口(2018)は習近平時代において、「協商民主」が党第18期三中全会において提起された「国家ガバナンス体系・能力の現代化」を推進する過程で重要な一翼を担うことを指摘した。つまり、「民主」は中国共産党の政治的言説の重要な一部であり、欧米の自由な選挙制「民主」とは異なる政治的背景と定義を持っているのであると言える。

「民主」という政治的概念を国民がどのように受け入れているかについては、中国人は自国の民主主義に高いレベルで共感しているというデータもある。2019年4月18日~6月6日に54カ国・地域の177,870人を対象に実施した調査「DPI2019 (Democracy Perception Index 2019)」は、マクロレベルのデータを用いた。香港デモに対する中国本土での報道は6月から始まっており、DPI2019は2019年の香港デモが頻繁に報道される前の中国人の民主主義に対する認識を示した調査であると言える。この調査では、中国本土の回答者の77%が「民主主義は重要である」と考えているのに対し、香港では63%であった。さらに、中国本土の回答者の51%が「自国・地域は民主的である」と考えているのに対し、香港では38%であった。つまり、この時点で中国人は民主主義を重要視しているが、中国が民主的だと考えている人は半数しかいなかった。そして、1年後のDPI2020の調査では、「民主主義は重要である」と思う割合について中国本土で84%、香港で64%となり、「自国・地域は民主的である」と思う割合については、中国本土で73%、香港で37%であった。つまり、中国本土では民主主義を重要視する人や中国が民主的である国だと考える人が大幅に増加した。

しかし、一部の学者の研究では、中国人の「民主」に対する認知は不十分であり、「民主」に対する認識が断片的であり、安定的で一貫した民主主義の価値観が形成されていないことを心理学の観点から指摘している(馬,黄,2021)。2015年と2019年の「中国都市・農村社会ガバナンス調査(China Social Governance Survey)」のデータを分析したところ、中国人は抽象的な民主と具体的な民主の概念のいずれについても曖昧な認識を持っており、民主の概念について明確な見解を示せない中国人の割合が高いことが分かった。認知の一貫性という観点から見ると、中国人の民主の原則の違いに対する認識には、矛盾や曖昧な点がある。特に、「立法-サービス」、「競争-秩序」の次元において、「民主」に対する認識として論理的に一貫した信念構造を維持できる人は、メディアの自由、複数政党による競争、結社の自由といった手続き的民主主義(procedural democracy)を支持するよりも、貧富の差の縮小、社会秩序の維持といった道具的価値(instrumental benefits)を高く評価していることがわかる。つまり、DPIのデータは、中国人が抽象的な民主主義を支持していることを示唆しているだけで、「民主」その具体的な意味合いに関しては調査されていないと言える。

このような民主主義と権威主義の共存は、池(2015)の研究でも示されている。池(2015)の調査では、中国本土の住民は権威主義的な政治的価値観と民主主義的な政治的価値観の両方で比較的高い得点を得ている。その結論は、「民主的な政治的価値は政府への信頼にマイナスの影響を与える」という仮説は検証できなかった。つまり、中国人の民主主義と権威主義に対する認識は二律背反ではない2つの概念であることを示している。

上記の先行研究によると、中国人の政治的価値観への認識構造は経済、政治、ナショナリズムを含めて多次元であることが明らかになった。そして、2019年香港デモに対する報道が中国本土内にて始まる前に、中国本土の人は民主を重要視していたことも明らかになった。しかし、民主に対して中国本土の人は独自の理解があり、民主主義が脅かされた場合、権威主義への好みが増加するとは限られていない可能性も示唆した。しかし、上記の研究は、中国人の認識において「権威」と「民主」が対立しないことを示すだけで、具体的な問題に対して中国本土の人々は民主主義をどのように議論しているか、またその思考傾向がメディアのフレームにおいてどのように強調されているかは示していないのである。

3. 中国におけるメディア管理

中国において、メディアは党・政府によって管理されている。具体的に、中国のメディア管理は①党委員会の政治指導、②政府部門の行政管理、③「部門管理」（主管・主辦単位による管理）、④メディア機構の内部管理の五点に分けられて論じられている（西, 2008）。特に文字の新聞内容を対象とした内容分析の研究により、党・政府のメディア内容への介入とその有効性が検証された。そのうち、Luther と Zhou (2005) は中国と米国における SARS に関するニュースのフレームを調査した。Kuang と Wei (2018) は政治的にセンシティブな問題のフレームを明らかにした。工藤 (2014) は主管・主辦単位が記事内容に与える影響を調査した。中国の新聞が政治的にセンシティブな国内問題を取り上げるとき、中国共産党の公式メディアと民間メディアは、宣伝当局に厳しく管理されているため、フレームの使い方に類似性が見られることがわかっている (Luther, Zhou, 2005;Kuang ,Wei, 2018)。国際問題を扱う場合、党派メディアは事実フレーム、紛争フレーム、責任フレームをよく用いるが (Kuang ,Wang, 2020) 、民間メディアは新華社の報道スタイルに従わず、より興味深い記事を求める市場・視聴者のニーズに合わせて多様なフレームを使おうとする (Zhao, 2000)。しかし、センシティブな問題を含むニュースでは、中国共産党の公式メディアと民間メディアのフレームには有意な差はないことが示唆されている (Kuang ,Wei, 2018)。政権を脅かす内容に対して、中国政府はネット上でも強硬な態度を取るという議論もなされている (King, Pan,Roberts, 2013)。動画内容を研究対象とした Pan と Shao (2010) の研究では 中国国家放送のニュース動画が公共政策の選好に与える影響を実験的に調査することにより、ニュース動画で支持された政策の立場を回答者に採用させることが判明した。このような厳しい政治統制や世論誘導は、一部の人々に政府が正しいと信じさせる一方で、一部の人々をタキトゥスの罠に陥れる、つまり、一度政府が多くの真実を隠していることを信じてしまうと、政府が本当の情報を公開しても信じられなくなるという学者もいるという (Ma&Lu, 2019)。

しかし、センシティブな国際・外交的ニュースをどのように放送しているのか、具体的にどのようなフレームで放送しているのかについて、特に「民主」に関連するニュースの場合、フレームにおける「民主」の位置付けは不明なままである。したがって、本研究では、フレーミングが信念の重要性とその内容に影響を与えることで、人々の認識に影響を与えるという理論に基づき、2019年の香港抗議デモ運動に関する中国本土のメディアフレーミングには、政治的信念の次元において優先順位の違いがあり、それが人々の認識に影響を与えたという仮説を立てる。そこで、以下の分析では、さらに民主という言葉の使用実態について観察する。

第3章. 分析データと方法

2019年香港デモ運動の報道に関して、メディアフレームの存在とそのフレーミング効果を調査するために、本研究では2つの研究を行った。まず、中国本土と香港のメディアフレームの内容分析を行い、ニュースフレームの存在と具体的な内容を明らかにする。フレーミング効果は、対応するコメント欄を考察することで測定する。メディアフレームングの効果は、コメント内容とメディアフレームを比較し、フレームの変化に応じてコメント全体が変化するかどうかを観察することで検証する。

分析するデータとしてコメントを選ぶメリットは、2019年のその時期に記事動画を見た人の反応が提示されていることである。一方、限界も明らかで、ユーザーが実際に動画を見てからコメントを書いたのか、コメントは本当の政治的態度をどの程度反映しているのか、動画についてコメントを残さなかった人の態度はどうだったのか、などを確認することはできない。しかし、香港デモに関する「コメントの仕方」に対して、メディアのフレームが影響したか否か、どのように影響したのかは、観測可能である。その結果として、中国で目に入る言論の様子も明らかにすることはできると考える。

第3章では、TVや動画の放送内容分析を行う。2019年6月13日から10月23日まで、新聞聯播、共青团中央、ケーブルテレビがオンライン動画プラットフォームにアップロードした合計456本の動画のタイトル、テキスト内容、映像内容を分析し、5カ月間の中国本土・香港報道のフレームを把握する。まず、中国語単語分割AIソフトWeiciyunを用いて、動画タイトル、テキストコンテンツの単語頻出度統計と共起分析を行い、頻出語と共起ネットワーク分析によりマクロなアジェンダセッティングの有無を確認する。同時に、映像コンテンツをコーディングし、各項目の出現頻度をカウントし、フレームの特徴分析を補完する。

コメント欄の内容分析は、第4章で行う。ビリビリ上のメインコメント（コメントに対する返信除く）のテキストをPythonによるクローリングで収集し、収集したテキストデータをWeiciyunで単語分割、単語頻度統計、共起行列の分析を行った。毎月、視聴者がどの言葉を中心にコメントを残しているのかを明らかにするところを目的とする。

上記のコーディングは、中国語を母国語とする学部2年生1名と修士2名によって行われた。コーディングした項目は、「現場のシーン有無」、「抗議デモ運動現場のシーン有無」、「愛国的デモ現場有無」、「衝突のシーン有無」、「スローガンやポスターのシーン有無」、「抗議的スローガンやポスターのシーンの有無」である。

第4章. 記事内容のフレーム分析

2019年の香港デモ運動は、2019年3月10日に始まった抗議活動まで遡ることができる。香港のケーブルテレビは2019年3月8日から「逃亡犯条例改正案」に関する放送内容をネット上に投稿したのに対し、中国本土の場合、CCTVのニュース番組「新聞聯播」が6月14日から初めて公式放送しネット上に投稿し、それ以前は逃亡犯条例改正案に起因するデモを含めた香港抗議運動に一切触れなかった。そのため、中国本土と香港では、放送スケジュールに明確な違いがあったことがわかる。内容的には、香港のメディアは、できるだけ全体像を伝えようとしたものの、何を強調し、何を強調しないかという選択もあった。こうしたアジェンダセッティングの傾向は同様に中国本土の放送でも見られた。例えば、香港ケーブルテレビと中国本土CCTVは、「新聞聯播」の一部を30秒から3分のクリップに編集し、YouTubeやBilibiliなどのプラットフォームで公開していたが、特定の出来事を報道するかどうかの判断、どう報道するか、宣伝の強弱には大きく違いがある。第3章では、中国本土のメディアと香港メディアの抗議デモ運動に関する「言及」と「強調」の違いを示すために、報道スケジュールを対照・分析し、中国本土のメディアフレームを析出する。

1. 分析の対象

本研究は、中国本土の「新聞聯播」と「共青団中央」、香港の「ケーブルニュース」の3つのメディアを対象に分析を行った。

まず、「新聞聯播」は公式サイトにもYouTubeにもコメント欄が公開されていないため、「共青団中央」のコメント欄を代替として用いて、公式メディアのフレームに対する視聴者の反応を観察する。「共青団中央」を代わりに選んだ理由は、「新聞聯播」と「共青団中央」はフレームが似ており、同じく中国の公式立場を表しているという仮定に基づいている。「共青団中央」は、中国共青団中央委員会のオンラインメディアへの進出から生まれたもので、2017年に中央委員会はBilibili動画プラットフォームに加入し、動画チャンネル「共青団中央」を開設した。「共青団中央」はBilibiliで中国政府のアカウントとして初めて1000万フォロワーを獲得したチャンネルである。つまり、「共青団中央」は「新聞聯播」と同じように党中央宣伝部の指導を受け、中国本土メディアの公式な立場を代表しているのである。2019年香港デモ運動の際、「共青団中央」はの映像を何度も引用して短い動画を制作しており、フレーム近似の仮説は以下の分析で検証された。そこで、本研究では、両者に共通する報道フレームを分析し、中国本土の公式メディアフレームとしてまとめた。

中国本土の「新聞聯播」と香港の「ケーブルニュース」の対照可能性について、前者が国営の無料テレビ番組、後者が民間の有料テレビ番組という違いはあるが、地上波とネットの両方のチャンネルで放送されているニュース番組で、注目度が高いため、参照対象として選んだ。香港で最も有名なニュース番組は「TVBニュースチャンネル」だが、2019年香港事件の際、中国本土に偏った立場を取っていると世論から非難されたため、より中立的な立場を持つ「ケーブルニュース」を参考として選択した。香港メディアのフレーミングが視聴者にどのような影響を与えるかを説明することは本研究の主な意図ではないため、「ケーブルニュース」のデータ結果と比較し、中国本土のメディアのフレーム特性を浮き彫りにしていくことにする。

2. 文字内容に対するフレーム分析

2.1 放送タイムライン

2019年6月13日から2019年10月23日まで、「新聞聯播」は公式ウェブサイトにて2019年香港デモ関連のニュース動画を203本、「共青団中央」はBilibiliサイトにニュース動画を90本、「ケーブルニュース」はYouTubeサイトにニュース動画を163本、合計456本の動画を掲載した。各メディアによる放送タイムラインの比較表は付録1に示す。

全体的な特徴として、放送日程には重複があるものの、その内容には重複が極めて少ないことが挙げられる。

「新聞聯播」に代表される中国本土メディアはごく一部の出来事を選択して取り上げ、ほとんどの場合は香港デモを国家主権・外交問題として報道していた。一方、香港のケーブルニュースはデモの経過を重視したが、愛国的な集会を取り上げないという特徴もある。こうした違いは以下の頻出語句の分析からも導き出すことができる。

105日間の放送の中で、中国本土と香港の両方が報道した日の割合が46.7%に達しているのに対し、同じ特定の事実を放送するケースは非常に少ない。つまり、ほとんどの場合、中国と香港は同じ日に別の出来事を取り上げたり、同じデモの別の小さな出来事を報道したりしたのである。2019年6月から10月までの約5カ月間で、中国本土メディアと香港メディアの両方で取り上げられた事件は、表1に示すように8件しかない。

表1 中港両方で取り上げられた事件

取り上げた事件	事件の発生時間	新聞聯播	共青团中央	ケーブルニュース
612 金鐘集会	2019年6月12日	×	○	○
71 立法会襲撃	2019年7月1日	○	○	○
721 デモ	2019年7月21日	○	○	○
811 尖沙咀警察署	2019年8月11日	○	○	○
813 香港空港	2019年8月13日	○	○	○
824-825 デモ	2019年8月24日 2019年8月25日	○	○	○
831 集会	2019年8月31日	○	○	○
覆面禁止法公布	2019年10月9日	○	×	○

(出所：付録により、筆者作成)

上記8件の事件をさらに分類すると、(1) 同じ事実をもとに異なる評価をする報道(例：612 金鐘集会、71 立法会襲撃、813 香港空港、覆面禁止法公布) (2) 背景は同じ事件だが異なる側面を表す報道(例：721 デモ、824-825 デモ、831 集会、811 尖沙咀警察署)に分けることができる。

2019年の一連デモや抗議運動に対する中国と香港のメディアの報道には、マクロ的なフレームワークの違いが明確にあると言えるだろう。5ヶ月近い放送日程の中で、同じ具体的な事実を報道したのは(1)の4件だけだった。つまり、タイムラインのような構造的な違いだけでなく、具体的な報道内容には重なりが少ないことが分かる。その結果、中国と香港の視聴者の共通点は、メディアを通じてデモ運動が行われたことを知ったということだけであり、具体的に何が起こったのか、どこで、なぜ行われたのかについて、心の中でまったく異なる理解がなされているかもしれない。

2.2 頻出語分析

以上の分析を通して、中国の公式メディアのフレームが存在し、香港のメディアとは大きく異なったことが明らかになった。次いで中国本土の公式メディアフレームはどのような内容・特性で、香港のメディアとどう違うのかをみる。頻出語分析では、2019年6月13日から2019年10月23日までに3つのメディアがネッ

ト上で投稿した計 456 本の 2019 年香港デモ関連動画からコンテンツデータを収集し、合計 102,478 字の中国語テキストを収集した。香港のデモ運動で中国の本土公式メディアが実際にどのようなメッセージを強調したのかを観察・分析するために、456 本の動画のテキストコンテンツで頻繁に使われた単語の出現頻度に基づき、月単位で降順で並べ替えた。そして、「場所」、「行動の主体」、「政治的用語・イデオロギー」、「特定の単語が話題になり始めた時点」の 4 つの主要な語彙の使用状況に注目した。

香港：「ケーブルニュース」に対する頻出語分析結果

2019 年 6 月 13 日から 2019 年 10 月 23 日までに、「ケーブルニュース」が YouTube に投稿した 163 本の動画のテキスト内容を単語分割し、頻出語を月単位で降順とおりにまとめた結果は表 2 である（和訳：付表 2 参照）。

表 2 香港：「ケーブルニュース」頻出語

メディア	頻度順	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
ケーブルニュース (cable news)	1	警察	示威者	示威者	警察	警察
	2	示威者	警察	警察	防暴警察	香港
	3	逃犯	市民	警署	太子	改革
	4	政府	元朗	催涙弾	月台	男子
	5	立法	白衣	防暴警察	制服	消防
	6	市民	立法	施放	方向	市民
	7	示威	玻璃	男子	示威者	元朗
	8	要求	警署	市民	男子	政治
	9	聚集	胡椒	聚集	警署	希望
	10	盾牌	防暴警察	制服	催涙弾	自由

(出所：記事内容により、筆者作成)

2019 年 6 月以降の 5 ヶ月分の香港ケーブルニュース報道で、「警察」と「示威者（デモ参加者・デモ隊）」が最も頻繁に登場する用語になっている。「市民」は、「警察」や「示威者（デモ参加者・デモ隊）」ほど頻出度は多くないが、それでも毎月高い頻度で登場し続けている。また、場所や方向を示唆する単語が多く使われているのも特徴的である。特に 7 月から 9 月の 3 ヶ月間は、「警署（警察署）」、「月台（駅のプラットフォーム）」、「元朗（香港地名）」などの用語が高い頻度で使われた。政府、「要求」、「立法」、「改革」など、政治的な要求に関連する言葉も頻繁に使用された。

また、いくつかの用語が頻繁に使われるようになった時点も興味深い。7 月になって初めて頻出した言葉として、「防暴警察（暴力防止警察）」、「白衣（白い服）」がある。「防暴」と「警察」を「防暴警察」に組み合わせる使い方は 7 月に初めて登場し、8 月から頻度が急増した。「白衣」も 7 月から登場したが、その後の 3 ヶ月は頻度ランキングのトップ 10 に登場しなかった。デモ参加者と警察の間で使われる武器として、7

月に初めて「胡椒（胡椒）」が、8月には初めて「催涙弾（催涙ガス）」が頻繁に使われるようになった。9月は「催涙弾」の使用頻度が減ったものの、それでも10位にランクインしている。

中国本土：「新聞聯播」に対する頻出語分析結果

2019年6月13日から2019年10月23日までに、「新聞聯播」により公式ウェブサイトに投稿した203本の動画のテキスト内容に対して単語分割し、頻出語を月単位で降順でまとめた結果は表3である（和訳：付表3参照）。

表3 中国本土：「新聞聯播」頻出語

メディア	頻度順	6月	7月	8月	9月	10月
新聞聯播	1	特区政府	香港	香港	香港	香港
	2	問題	暴力	暴力	发展	规例
	3	发表谈话	法治	社会	警方	蒙面
	4	强烈	维护	警方	大湾	禁止
	5	反对	冲击	支持	暴力	暴力
	6	粗暴	严重	发展	支持	订立
	7	事务	社会	法治	呼吁	行政长官
	8	决定	守护	维护	各界人士	特区政府
	9	暂缓	谴责	示威者	谴责	依法
	10	修订	稳定	严重	粤港澳	支持

（出所：記事内容により、筆者作成）

約5ヶ月の「新聞聯播」報道の中で、2019年6月から「粗暴（残虐）」や「暴力」といった暴力性を示唆する言葉が頻出し、「香港」一件を除けば間違いなく暴力が最も頻出する言葉である。場所を示す言葉も頻繁に登場するが、「香港」、「大湾（広東・香港・マカオグレーターベイエリア）」、「粤港澳（広東・香港・マカオ）」など、香港内の特定場所ではなく地域レベル以上の地名がより頻繁に登場する。また、「特区政府（SAR government）」、「法治」、「社会」、「发展（発展）」、「依法（法律に基づき）」など、抽象的な政治思想に関連した用語も頻出する。特定用語が頻繁に使われるようになった時期について、8月に初めて頻繁に使われた用語は、「警察」、「示威者（デモ参加者）」、「発展」である。

また、「强烈（強く）」、「反对」、「谴责（非難）」、「维护（維持・defend）」、「支持」、「呼吁（アピール・appeal）」などの態度を表す単語が多く使われているのも特徴である。これらの言葉は、ケーブルニュースではあまり使われなかった。この特徴は、動画タイトルだけを分析するとさらに顕著で、下記の表4に詳細を示すように、3ヶ月連続で「谴责」と「呼吁」がタイトルで最も頻繁に使われている（和訳：付表4参照）。

表4 中国本土：「新聞聯播」タイトル頻出語

メディア	頻度順	7月	8月	9月
新聞聯播	1	谴责	呼吁	谴责
	2	呼吁	谴责	强烈
	3	评论员	特区政府	央视
	4	央视	强烈	激进
	5	强烈	迎来	示威者
	6	恢复	开学	冲击
	7	秩序	香港	法会
	8	新华	秩序	国务院
	9	时评	发展	港澳办
	10	特区政府	国际	外交部

(出所：記事内容により、筆者作成)

中国本土：「共青团中央」に対する頻出語分析結果

2019年6月13日から2019年10月23日までに、「共青团中央」がBilibiliに投稿した90本の動画のテキスト内容に対して単語分割し、頻出語を月単位で降順とおりにまとめた結果は表5である(和訳：付表5参照)。「共青团中央」の報道には、暴力的な言葉の使用、「警察」と「示威者」が頻繁に使われ始めた時点、態度やマクロな地域を示す言葉の使用という4つの点で「新聞聯播」とほぼ同じ特徴が見られる。その中、8月からデモ参加者が「暴徒(暴徒・暴れ者)」として頻繁的に呼ばれ始め、9月以降、地域を表す言葉の頻度に変化し、「车厢(車室)」や「茶餐厅(茶レストラン)」など具体的な場所を指すようになったことが違いであると考えられる。

表5 中国本土：「共青团中央」頻出語

メディア	頻度順	6月	7月	8月	9月	10月
共青团中央	1	香港	香港	香港	香港	香港
	2	和平	暴力	警察	暴徒	警察
	3	外交部	中国	暴力	警察	记者
	4	金钟	美国	示威者	香港市民	茶餐厅
	5	发生	谴责	谴责	光头	勇敢
	6	情况	国际	行径	警长	意外收获

	7	集会	強烈	暴徒	月饼	营业
	8	公然	事务	央视	车厢	火爆
	9	组织	冲击	呼吁	警队	生意
	10	发动	立法会	支持	大家	黑衣

(出所：記事内容により、筆者作成)

2.3 頻出語の比較分析

頻出語統計によると、時間の経過とともに使用頻度に変化している語句が多数存在する。この節では、特定の単語に焦点を絞って、その使用頻度が時間的な次元でどのように変化するかを観察する。頻出語の分布を比較することで、中国本土と香港がそれぞれ異なるタイミングでどのようなメッセージを強調したいのかが明らかになるだろう。

場所

香港と中国本土の報道内容では、地理的位置を示唆する単語の使用に明確な特徴の違いがある。まず、図1からわかるように、「新聞聯播」は「中国-米国-外国」という用語を頻繁に使い、国家レベルでの地理的位置を報道するのが特徴である。一方、ケーブルニュースの枠組では、より具体的で、小さな地理単位で報道することが特徴であり、特に米国と外国はほとんど登場しなかった。中国本土メディアが具体的な地名を全く報道しないわけではないが、香港のケーブルテレビほど頻繁には使っていない。

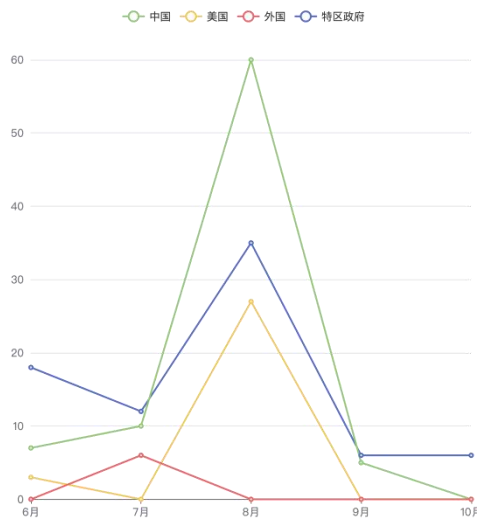


図1 新聞聯播による地理・場所用語
(出所：記事内容により、筆者作成)

図2は、香港デモが行われた具体的な地名である「元朗」、「太子」、「尖沙咀」、「大埔」、「大仙」、「太古」、「旺角」、「沙田」という総計9個の単語が香港のメディア報道で使用された程度を示している。香港のケーブルニュースは具体的かつ小さな地理的単位を多く使用していたことがわかる。

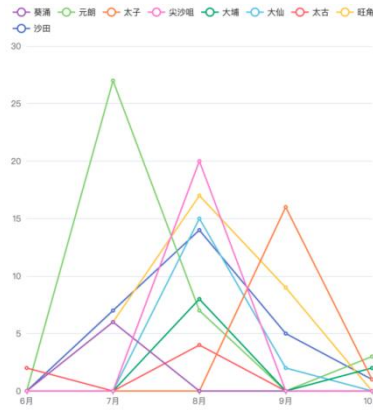


図2 ケーブルニュース具体的な場所用語
(出所：記事内容により、筆者作成)

行動の主体

2019年香港デモに関して、中国本土のメディアにおいても香港のメディアにおいても、重要な人物関係は警察とデモ参加者だった。警察とデモ参加者に対する中国本土と香港での報道の違いは、頻繁に使用され始めた時点である。

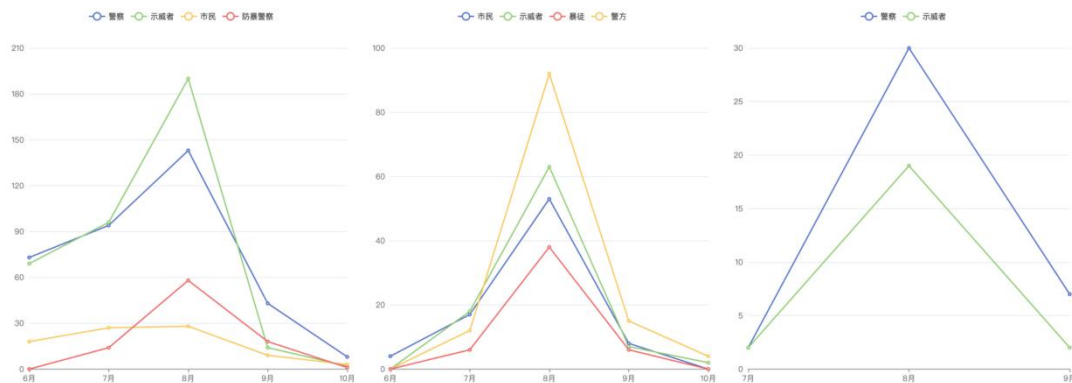


図3 警察—デモ参加者—市民 (左から右：香港ケーブルニュース、新聞聯播、共青団中央)
(出所：記事内容により、筆者作成)

図3から分かるように、中国本土において、警察とデモ参加者に言及するようになったのは2019年7月からであり、話題になって頻繁に言及したのは8月だった。それに対し、香港のメディアは6月あるいはそれ以前から言及するようになった。つまり、「警察—デモ参加者」という人物関係を議論し始めた時点に関して、中国本土は香港より少なくとも1カ月は遅れているのだ。

もう一つの特徴は、警察かデモ参加者か、8月の報道で強調される行動の主体が違うことである。議論が最も盛り上がった8月には、中国本土側では「警察」という言葉の使用頻度が高く、香港ではデモ参加者側の使用頻度が高かった。そして、接尾辞の「暴力」は、香港側が「警察」に付けて、固有名詞の「防暴警察」を作った。これに対し、中国本土側は抗議者に「暴力」という接尾辞を付けて、抗議者を暴力的と定義する固有名詞「暴徒」を使用した。

政治的用語

中国本土と香港の違いは、政治的イデオロギー・価値観という語彙の使い方により顕著に現れる。香港では、6月に「撤回」「要請」、7月と8月に「立法」、10月に「改革」と、逃亡犯条例改正案の進捗に応じた変化

が見られる。香港と比較すると、中国本土のメディアにおける常用句の構成は安定的で変化が少なく、「社会」と「法治」は時間の経過に関わらず常に上位であった。つまり、社会の安定が常に重要視されることが浮き彫りになっている。

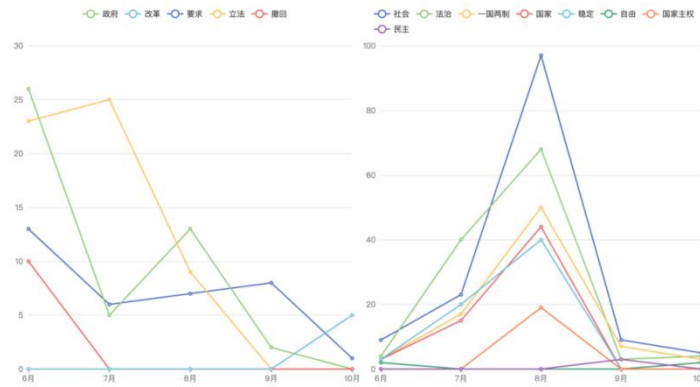


図 4 政治的用語・価値観（左：ケーブルニュース、右：新聞联播）
（出所：記事内容により、筆者作成）

また、支持-反対-谴责（非難）という政治態度を表す言葉は、香港のケーブルニュースではほとんど使われない用語で、「新聞联播」と「共青团中央」でしか頻繁に使われてない。特に、8月の使用頻度について、「新聞联播」においては「支持」がより高いのに対し、「共青团中央」では「谴责（非難）」がより頻繁に使われ、9月に両方とも収斂した（図5参照）。

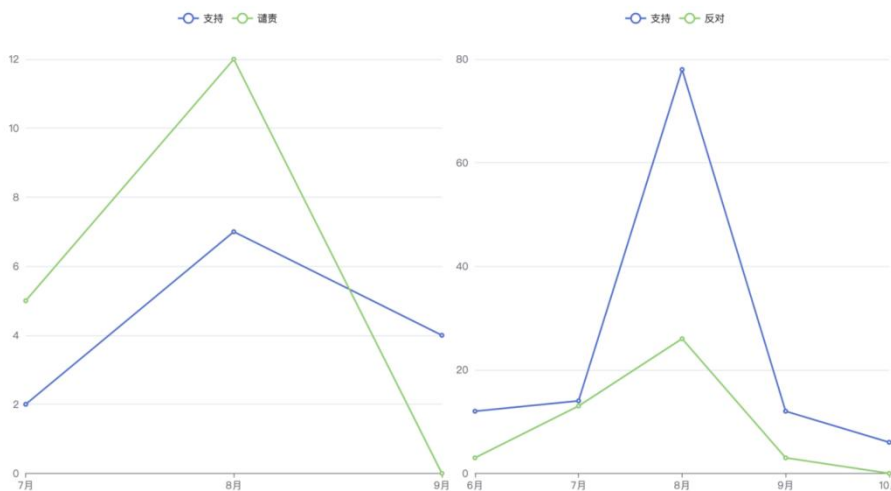


図 5 態度：支持—反対—非難（左：共青团中央、右：新聞联播）
（出所：記事内容により、筆者作成）

2.4 共起ネットワーク分析

単語と単語の関連性を理解するために、「新聞联播」と「ケーブルニュース」の共起行列表に基づいて生成したネットワーク図を考察していく。10月報道数両方とも少ないため、6月から9月までに各月ごとにメディアがどの関連性に着目したかを比較することで、中国本土と香港のメディアフレームの違いを明らかにする

(図6~図9参照)。

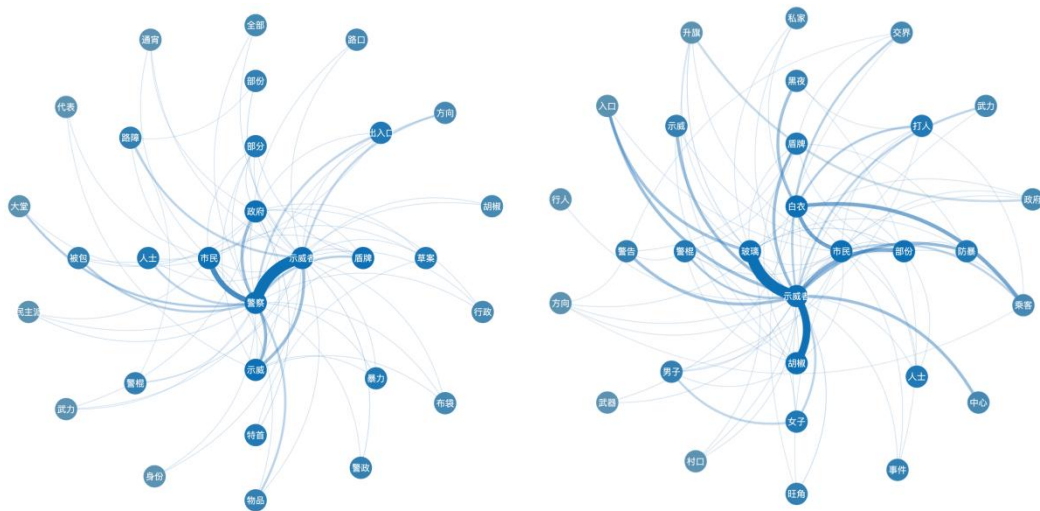


図6 香港ケーブルニュース (左から右: 6月7月)



図7 香港ケーブルニュース (左から右: 8月9月)



図 8 中国本土新聞聯播（左から右：6月7月）



図 9 中国本土新聞聯播（左から右：8月9月）

（図6-図9出所：記事内容により、筆者作成）

ネットワーク関係図によると、香港のケーブルニュースは抗議デモが行われた4ヶ月間、「警察」と「示威者（デモ参加者）」について継続的に取り上げ、両者は各月で高い共起度を反映していると結論づけることができる。一方、新聞聯播の場合は、「暴力」と「社会」が7月から9月までの3ヶ月ごとに異なる用語との共起度が高く、ネットワークの中心的な位置に置かれていた。また、「警方（警察）」と「示威者（デモ参加者）」は7月から高い共起度を示すようになった。つまり、2019年の香港抗議デモ運動について、中国本土の公式メディアは「暴力」と「社会」を中心に香港デモを論じ続ける一方、7月には警察-抗議者のフレームが強調され始めたことがわかる。

2.5 まとめ

以上、頻出語に基づいたフレーズ分析から、2019年香港デモに当たり中国固有のメディアフレームには、以下の4つの特徴があることがわかる。

(1) 国家-外交側面から論じ、米国登場。

(2)警察とデモ参加者の人物関係：7月から登場し、8月からは警察という言葉がデモ参加者より多く使われ、暴徒という言葉が頻繁に使われるようになった。

(3) 合意形成：デモの暴力性と社会的安定の重要性が4ヶ月の時間をかけて強調された。

(4)態度的「支持-非難」との枠組みの存在。

結論整理			
	ケーブルニュース	新聞聯播	共青团中央
場所	具体的な地名や方向	国家-外交レベル	国家-外交レベル
			9月具体的な地名頻出開始
行動主体	常に存在する「警察-デモ参加者」	7月警察とデモ参加者のフレーム現れ始めた	
暴力	7月「防暴警察」頻出開始	6月暴力性を示唆する単語頻出開始	7月暴力性を示唆する単語頻出開始。
			8月「暴徒」頻出開始
政治的用語	逃亡犯条例改正案の進捗に応じて変化する具体的な政治要求	常に「社会」と「暴力」を強調 支持-反対-非難の態度を表す用語頻出	谴责（非難）の態度を表す用語頻出

(出所：記事内容により、筆者作成)

3. 動画内容に対するフレーム分析

本研究では、文字外表現のメディア特徴を分析するために、上記の456本のビデオの内容をコードディングした。まずは、各映像の3つの側面、すなわち「デモ・運動現場のシーン有無」「衝突のシーン有無」「スローガンやポスターのシーン有無」をそれぞれ個別にコーディングしている。集計統計を取りやすくするために、「有」と判定された場合は「1」と表記し、「無」と判定された場合は「0」と表記し、その結果を下表に示した。

表6：「1」とコーディングした動画数

項目	ケーブル	新聞連播	共青团中央
デモ・運動現場のシーン有無	137	20	44
(現場有) 愛国的運動現場	0	4	7
衝突のシーン有無	91	5	30
スローガンやポスターのシーン有無	47	2	10

(出所：動画内容により、筆者作成)

コーディングの結果、現場映像を使用する割合が最も高かったのは「ケーブルニュース」、最も低かったのは「新聞連播」である(参照図10)。つまり、「新聞連播」は香港デモ運動の現場をネット上で報道する傾向が弱いのに対し、香港のケーブルニュースはデモや抗議運動の現場を示す傾向があるのである。

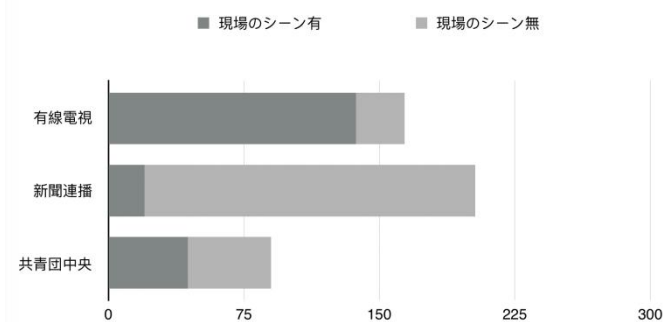


図 10 現場のシーンありの割合
(出所：動画内容により、筆者作成)

また、「共青団中央」はほぼ半数の報道で現場のシーンを使用した。また、「新聞連播」と同様に、その一部は「愛国的運動現場」で構成されており、実際に 2019 年香港抗議デモ運動の現場映像を使用した動画はさらに少なかった。表 7 によって、愛国運動現場の場合を除くと、「デモ・運動現場のシーン有」の少数の映像のうち、「衝突のシーン有」の割合に関して、最も高かったのは「共青団中央」の 81.9%、「ケーブルニュース」の 42%、最も低かったのは「新聞連播」の 31.25%であった。ケーブルテレビを基準とした場合、「共青団中央」ではデモ現場シーンの衝突性が強調される傾向があり、「新聞連播」ではデモ現場シーンの衝突性を映像で示さない傾向があることを意味する。

表 7：衝突のシーン有/抗議デモ運動現場のシーン有(%)

項目	有線電視	新聞連播	共青団中央
抗議デモ運動現場のシーン有	137	16	37
衝突のシーン有	91	5	30
割合	66.42%	31.25%	81.9%

*「抗議デモ運動現場のシーン有」＝「デモ・運動現場のシーン有」-「愛国的運動現場有」

(出所：動画内容により、筆者作成)

また、他の顕著な相違点は、デモ・抗議運動において用いたポスターやスローガンを動画で提示するかどうかである。この項目に注目する理由は、ポスターやスローガンは、単なる衝突や群衆の集まりよりも、運動の目的や核となる要求を示唆し、視聴者が現場のシーンを深く理解するように機能することができるからである。まず、スローガンやポスターを視聴者に見せることに対し、香港と中国本土において同じような傾向がある。「デモ現場あり」の動画中、さらに「ポスターやスローガンのシーン有」の比率に関して、「ケーブルニュース」は 34.3%、「新聞連播」は 10%、「共青団中央」は 22.7%を占めている。

しかし、スローガンやポスターの内容が抗議的内容であるかどうかを項目としてコーディングしたところ、表 8 のように傾向の違いが見られる。つまり、香港で行われる抗議的なデモの場合、中国本土のメディアは、その様子を伝えるとしても、スローガンやポスターではなく、群衆が集まっている様子や衝突などの映像のみを流す傾向があると言えるだろう。

表 8：抗議的スローガンやポスターのシーン有/抗議デモ運動現場のシーン有(%)

項目	有線電視	新聞連播	共青団中央
抗議デモ運動現場のシーン有	137	16	37
抗議的スローガンやポスターのシーン	47	0	1
割合	34.3%	0%	2.7%

* 「抗議デモ運動現場のシーン有」 = 「デモ・運動現場のシーン有」 - 「愛国的運動現場有」

(出所：動画内容により、筆者作成)

まとめると、中国本土のメディアが映像を選ぶ際に共通しているのは、特定の出来事を報道しない傾向と同様に、デモや抗議活動の現場を映さないということである。そのため、中国では一部の抗議行動しか表示されていない。現場の画面が映し出される場合、「新聞联播」も「共青团中央」も、デモ或いは抗議運動現場のスローガンやポスターを映さないような傾向がある。また、「新聞联播」が衝突のシーンを使った報道の割合は31.25%と少ないが、「共青团中央」は81.9%と高い割合で衝突のシーンを使う傾向が見られる。

4. 結論と検討

以上のようなフレーム分析から分かるように、「新聞联播」と「共青团中央」がニュースのフレームを共有しているのに対し、香港のケーブルニュースはそれらとは全く異なる特徴を呈していることがわかる。

タイムラインの比較において、中国本土と香港のメディアの放送スケジュールには重複が見られるが、放送内容には重複がないことが多いことが特徴となる。この4ヶ月間、中国の公式メディアは香港の抗議運動について具体的な報道を欠き、一般的な香港全体について言及・論評することが多いのに対し、香港のケーブルニュースは特定の出来事についての説明的な報道が多数であるが、香港において行われた愛国集会について報道しない傾向が見られる。このため、同じ出来事の具体的な事実を報道することは4回しかなかったことになる。つまり、中国と香港のマクロ報道の枠組みには、政治的な立場やデモに対する賛否態度だけでなく、事実の提供という点でも大きな違いがあると言えるだろう。

テキストの内容については、頻出語句の分布と共起ネットワーク関係図の分析から、報道された場所、行動の主体、イデオロギー・政治的用語、特定の用語が話題となり始めた時期などの特徴がまとめられる。2019年の香港デモ運動に関する中国本土メディアの報道の特徴は下記のように4つがある：(1)報道の中で展開された国家外交的側面、また米国に対する強調。(2)警察 vs 抗議者：7月から登場し始め、8月には抗議者よりも警察の方が語彙の使用頻度が高くなり、暴徒という言葉も8月から頻繁に使われ始めた。(3)暴力性や衝突性を強調し、社会の安定性を重視した。(4)態度表明における「支持」-「谴责(非難)」という枠組。上記4つの特徴は、中国本土の公式メディア独自のもので、2019年6月13日から2019年10月23日までのケーブルニュース報道には現れてなかった。

映像の内容については、コーディングによる統計から、中国本土メディアの映像の選択に共通するのは、抗議デモ行進の現場を映さない傾向があることである。デモ行進が映し出されても、「新聞联播」も「共青团中央」も、デモ行進のスローガンやポスターは映さない傾向があった。その上で、「新聞联播」では紛争現場の映像はほとんど使われなかったが、「共青团中央」では現場のシーンありの映像の内、8割近くで衝突映像が使われていた。

まとめると、中国本土の公式メディアのフレームは下記のようなものである。まずは、トピックの選択において、国家外交の次元から議論を始まり、6月から7月にかけて米国の存在が強調され、8月以降は警察とデモ参加者の衝突が強調されたなど、アジェンダのセッティングに変化が見られるようになった。その上、常に強調されていたのはデモの暴力性と社会安定の重要性であって、警察と抗議者の衝突が話題になった8月から「暴徒」という特定用語が頻出し始めた。現場映像の使用は最小限にとどめ、抗議的スローガンやポスターの内容を提示しない傾向にあった。態度の表現において、「支持-谴责(非難)」の枠組みが多く使用された。図11は上記の内容を図示したものである。

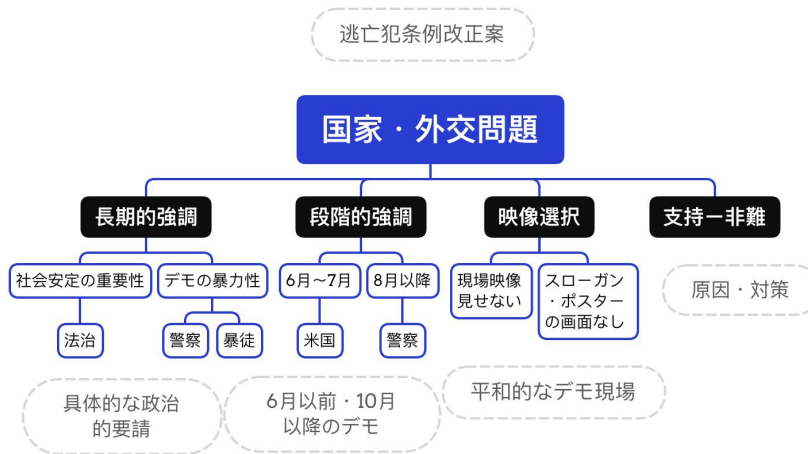


図 11 中国本土のメディアフレーム（出所：筆者作成）

2019年香港における「逃亡犯条例改正案」の論争に関して、中国本土の視聴者は抗議デモ運動を直接体験することなく、メディアから情報を得た。そして、上記のメディアフレームの存在は、フレーム内での情報への言及、あるいは強調を意味するだけではない。図 11 点線内の内容、例えばデモ行進の具体的な場所、抗議運動の政治的要求、支持と非難などを越えた思考方式への注意を排除することに相当するとも言えるだろう。もちろん、香港側は現地の愛国デモや集会についても報道不足があり、社会の安定などを優先して報道することを排除したこともある。また、香港と中国本土の市民が違うのは、前者がそれを直接目撃したり、体験したりすることがあるということだ。そのような実体験や目撃体験が、政治参加や意識に影響を与えることは、先行研究において既に確認されている（Wallace,2014；Branton,2015；Zhang Han,2016）。しかし、中国の人々にとっては、2019年の香港デモは政治的な要求も知らないまま、突然、不特定多数の地域で行われた抗議デモ運動に過ぎなかったのかもしれない。こうした、メディア報道のフレーミングによって、視聴者の認識や態度がどの程度影響を受けたのかが、第5章で検討する問題である。

第5章. フレーム効果分析

効果分析の章では、「共青团中央」のコメント欄の内容に焦点を絞る。テキストマイニングによって、コメント欄の頻出語の特性を分析し、第3章の分析結果と比較する。比較の際には、放送内容の変化に応じてコメント欄がどのように変化するかを観察している。

1. コメント内容分析

2019年6月13日から2019年10月23日まで、「共青团中央」の利用者がBilibiliサイトに投稿したニュース動画は計90本で、これらの動画の利用者が残したコメントは計42万件に至る。本章では、Pythonを用いてクロールし、ウェブサイト上の主なコメント（コメントへの返信を除く）のテキストを収集し、収集したテキストデータを単語に分割して、5ヶ月間の単語出現頻度、各月の出現頻度をカウントする。毎月、「共青团中央」の視聴者がコメント欄にどのような言葉を残しているかを明らかにすることが目的である。その結果を表9に示す（和訳：付表6参照）。

表9 「共青团中央」コメント欄における頻出語

メディア	頻度順	6月	7月	8月	9月	10月
共青团中央	1	美国	中国	中国	香港	香港
	2	香港	香港	香港	警察	中国
	3	中国	美国	就是	中国	就是
	4	国家	国家	美国	真的	真的
	5	支持	就是	支持	就是	记者
	6	独立	英国	国家	大爷	支持
	7	没有	真的	警察	生气	警察
	8	时候	支持	世界	暴徒	时候
	9	人民	没有	真的	支持	没有
	10	暴动	世界	没有	滑稽	看到
	11	世界	独立	时候	没有	希望
	12	评论	时候	加油	看到	自由
	13	大陆	生气	滑稽	时候	已经
	14	势力	觉得	觉得	加油	知道
	15	觉得	国徽	知道	美国	国家

	16	自由	澳大利 亚	拥有	已经	暴徒
	17	问题	起来	已经	知道	美国
	18	还有	人民	祖国	觉得	无语
	19	警察	自由	生气	建议	粤语
	20	滑稽	祖国	希望	希望	视频

(出所：コメント内容により、筆者作成)

上の表が示すように、過去5ヶ月間のコメント欄において最も頻繁に使われた言葉は、「中国」、「美国（米国）」、「香港」、「国家（国家・国）」、「支持」であり、これは内容に対するネットユーザーの反応が国家外交的側面に基づくものが多く、使用する言葉も「支持〇〇（〇〇を支持する）」で態度を表すことが多いことが分かる。この5つの高頻度単語の5ヶ月内の使用頻度を比較すると、図11のようになる。6月に「美国（米国）」、9月に「警察」が上位に入ったほかは、「中国」と「香港」が上位2位を維持していることが分かる。特に「警察」に焦点を絞ると、頻度の高い用語として7月から徐々に話題になり始め、8月になると「警察」の話題が急増し、9月には一段落したことが分かる。

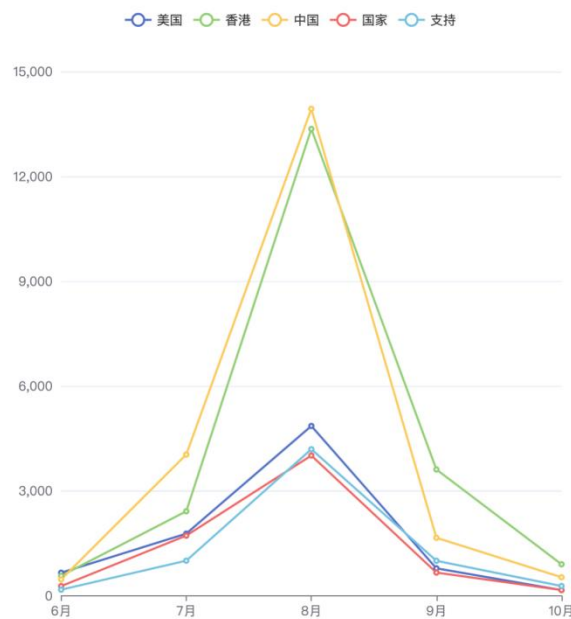


図 12 コメント欄頻出語 1～5

(青：米国、緑：香港、黄：中国、赤：国家、薄い青：支持)

(出所：コメント内容により、筆者作成)

「国家」は使用頻度が高くないが、語彙の共起に基づいて描かれたネットワーク図では、「国家」が中心的な位置だったことがより鮮明になっている。2019年6月から10月にかけて、「国家」は常に中央に位置し、特に7月と8月では「世界」・「祖国」と並んで最も頻繁に使用されていることを意味すると考えられる(図12-14参照)。つまり、ナショナリズムの特徴がコメント欄にて見られるとも言えるだろう。

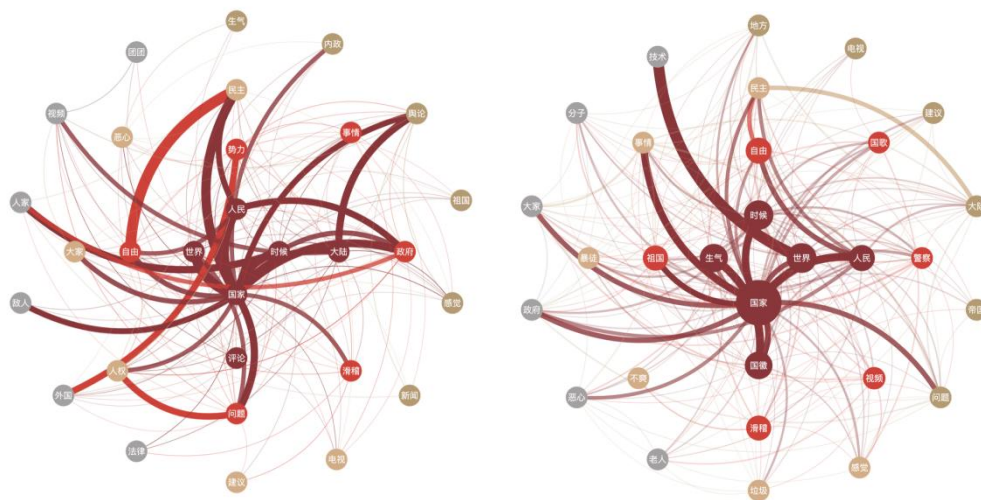


图 13 コメント欄 (左から右：6月7月)

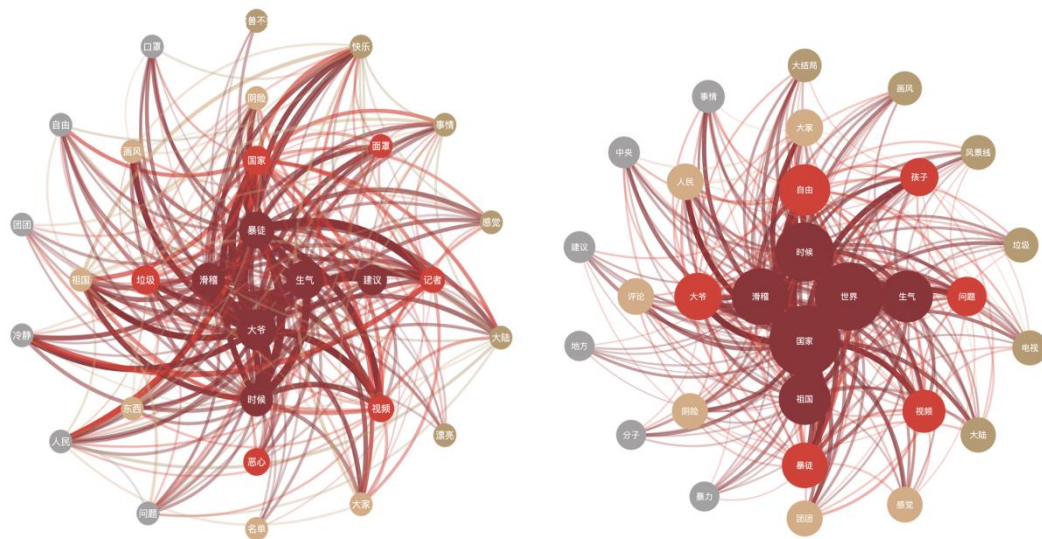


图 14 コメント欄 (左から右：8月9月)

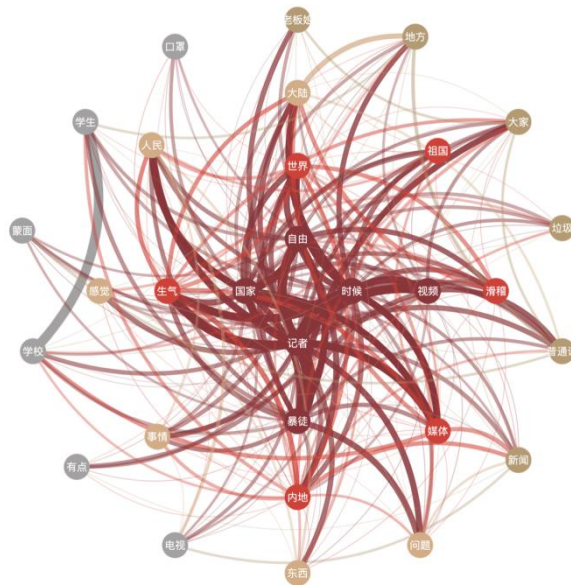


図 15 10月コメント欄
(図 13~図 15 出所：コメント内容により、筆者作成)

政治的価値観の議論も段階的にピークに達し、上記の表9に示したように「自由」が最も多く言及された。香港のメディアの枠組みでは頻りに登場する、「立法」、「撤回」などの具体的な政治的願望はほとんど登場しないことも見られる。そして、共起現象から見ると、6月から7月にかけては「自由」と「民主」の共起が多く、8月からは「自由」は「民主」などとの関連性が薄れ、それに対し使用される頻度数が多くなっていることも分かる(図 12~14 参照)。

また、態度を表す単語の出現頻度を調べたところ、頻りに言及される「支持」以外に、「滑稽」という単語も他の単語と比較して多く頻出することがわかった。しかし、ここでの「滑稽」は文字通りの使い方ではなく、Bilibili 特有の、冗談を示す絵文字のようなものである。つまり、冗談のように態度を表現する傾向もあると推測する。

2. メディアフレームとコメント欄の比較分析

続いて、コメント欄とメディアのフレームを比較し、コメント欄の内容がメディアのフレームとどの程度重なるのか、あるいは重ならないのかを記事ごとに考察していく。

まず、中国本土のメディアフレームの特徴の一つは国家・外交のレベルで2019年香港デモへアプローチすることである。コメント欄では同じく5ヶ月間ずっと「美国(米国)」、「中国」、「香港」「国家」を中心に議論したが、香港地域内での具体的な地名がほとんど言及されてなかった。つまり、視聴者たちも国家-外交的な側面から香港デモを論じる傾向にある。

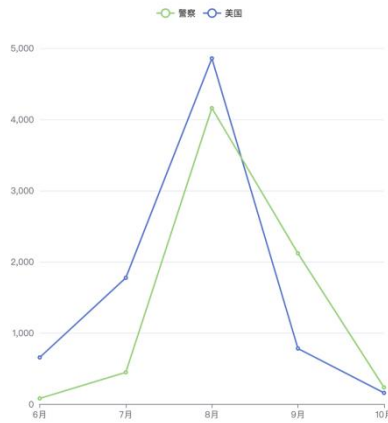


図 16 コメント欄 (青：米国、緑：警察)
(出所：コメント内容により、筆者作成)

また、アジェンダセッティングの効果が顕著であることも見られる。メディア側は6月から7月まで「米国」を強調し、8月から「警察」を取り上げて報道することはすでにフレーム分析の内容で明らかにした。そのコメント欄もメディアフレームワークの影響を受け、7月は「警察」の頻出度が「米国」より大幅に少なく、8月は「警察」が多くなり、「警察」と「米国」の頻度値の差が大幅に縮小し、9月は「警察」が「米国」より多く頻出したことから見ると、話題の中心が「米国」から「警察」へと徐々に移っていることを示している。こうして、話題が「米国」から「警察」へ変化した点がコメント欄でも見られ、変化し始めた時点さえ同じく8月であったため、アジェンダセッティングによる世論の方向性を変更する効果が明確に推論可能である。

しかし、フレームとコメントの構造的特徴が全部一致しているとは言えない。政治的イデオロギーを表す言葉に焦点を絞ると、「民主」や「暴力」よりも頻繁にコメント欄に登場した「自由」は、中国の公式なメディアフレームではあまり登場しなかった言葉であった。コメント欄に頻出する原因を探るため、さらに「自由」と共起頻度の高い用語をさらに調査した結果、香港デモに対する報道の早期において、6月では右隣語として「民主」が最も多く現れたが、7月と8月において右隣語として「美利堅 (米国)」が最も多く現れ、次いで「民主」と続いた。「美利堅 (米国)」とは、米国の自由を揶揄する言葉としてよく使われる用語であり、「自由美利堅、枪战每一天 (自由アメリカ、銃撃事件エブリデイ)」が慣用句として多く現れた。「自由」の頻出右隣語が「民主」から「美利堅 (米国)」へ変容したことから見ると、これは6月~7月の「米国」を中心にする話題設定に関係すると推測できる (図 15~17 参照)。

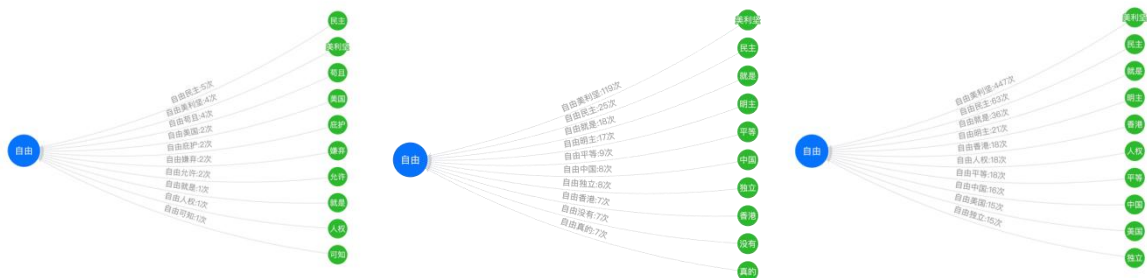


図 17 「自由」の右隣語(6月-8月)
(出所：コメント内容により、筆者作成)

このような国家や外国の概念と結びついていく変化は、「民主」に関連するコメントにも反映されており、具体的には左隣単語の統計結果に表れている。「民主」の場合は、7月になって米国との共起が多くなり始め、

6月のデータとは対照的になっている（図18参照）。

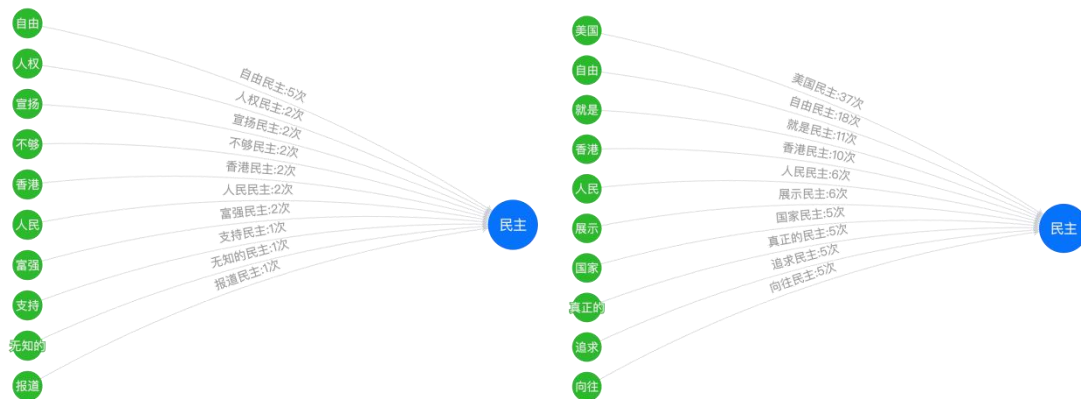


図18 「民主」の右隣語(6月~7月)
(出所：コメント内容により、筆者作成)

さらに、「民主」や「自由」について、7月以降から表れた「国家+イデオロギー」のような具体的な事例にも着目している。例えば、7-8月のコメント欄には下記のようなコメントが記載されていた。

「@沧笙踏歌_bili 2019/7/3 20:43 典型的なダブルスタンダード、西方の偽善的な民主はすでに衰退し、我が中国の体制の優位性がますます反映されている。頑張れ中国！」

「@多熬夜少做梦了 2019/7/30 22:00 アメリカの民主はFBI! DONT MOVE! bang! bang! bang!」

「@白粥好好吃 2019/8/12 5:44 ハワイ カリフォルニア独立 アメリカの民主を理解してみても、中国の民主主義は十分に優しい」

つまり、「民主」や「自由」を語る際には「中国」と「西方」を区分する傾向にあり、国家レベルに基づき他国の民主や自由をからかう形でコメントした事例が多かった。このような政治的イデオロギーよりもナショナリズム側面から報道内容に反応したのが特徴であると考えられる。

動画内容に関して、中国の公式メディアは特定の時間、場所、スローガンのポスターを文章や映像で示さないことが一つの特徴である。「共青团中央」の動画の下のコメント欄にも、2019年デモ運動の主旨に関わる「政府」、「撤回」、「要求」、「立法」、「改革」といった言葉がほとんどなかった。これは、メディアのフレームの影響によるものかもしれないが、言論審査の結果である可能性も否定はできない。しかし、中国本土の公式メディアは2019年香港デモを報道する際に、逃亡犯条例案に関わる具体的な政治的スローガンを捨象して提供したことは確実である。つまり、新聞聯播や共青团中央しか見てなかった視聴者は6月9日の反送中デモの五大請求は何か、立法会に訴える「真普選」の意味は何かに関する情報が欠如していたことは確実である。言論審査制度により削除されてもそれは別の情報源から得られた情報だと推測する。

メディアフレームは視聴者の言語使用にも影響を与え、特に「支持」や「暴徒」の使用において顕著であった。態度を表す言葉として、「支持」が頻出し、「香港を支持する」、「警察を支持する」、「中国を支持する」のようにセットで使われることが多いことがわかる。そして、具体的に何を支持しているかに関して、国家から警察への転換が見られる（表10参照）。それに比べ、メディアの枠組みで頻出する「谴责（非難）」は、コメント欄ではそれほど頻出せず、「生气（腹たつ）」、「无语（・・・すぎて言葉も出ない）」「恶

心（気持ち悪い）」など感情的ネガティブな表現が見られた。

表 10 コメント欄：「支持」の右隣語

項目	右隣頻度 順	6月		7月		8月		9月		10月	
		1	加州	9	苏格兰	16 2	香港	105 2	香港	20 3	香港
2	美国	7	北爱尔兰	11 5	支持	584	支持	16 6	支持	3 6	
3	香港	7	爱尔兰	90	警察	178	警察	35	中国	9	
4	国家	6	支持	34	中国	153	中国	20	港警	8	
5	北爱尔兰	6	香港	31	国家	71	加油	13	警察	5	
6	德州	6	加州	28	中央	57	国家	7	革命	4	
7	苏格兰	5	英格兰	17	祖国	45	大爷	6	国家	4	
8	支持	4	国家	16	美国	43	快乐	6	政府	4	
9	依法	4	独立	13	苏格兰	34	看到	6	中国政府	4	
10	中央	4	夏威夷	11	加油	33	暴徒	6	祖国	3	

(出所：コメント内容により、筆者作成)

デモ参加者の呼称について、コメント欄では、比較的に中立な言葉「示威者（デモ参加者）よりもネガティブな「暴徒」が多く使用されていた。「共青团中央」がデモ参加者を「暴徒」と頻繁に呼ぶようになった8月以降、コメント欄での「暴徒」の頻度が6-7月に比べて大幅に増加した。一方、香港のメディアがよく使う言葉である「防暴警察（暴力防止警察）」は、コメント欄には一度も登場したことがない。「暴徒」-「防暴警察（暴力防止警察）」といった固有名詞の登場からも、中国本土と香港による暴力の定義の違いが見えてくる。中国本土では暴力はデモ参加者から発生すると考えているが、香港ではデモ参加者に暴力の定義を加えず、必ずしもデモ参加者から発生するとは限らないという意味も含めて、暴力防止を警察と組み合わせているのであろう。

3. 結論と検討

2019年6月13日から2019年10月23日において、Bilibiliサイトの「共青团中央」チャンネルに投稿された90本のニュース動画に対する42万件のコメントの単語頻度分析と共起頻度統計を通じて、視聴者による中国本土の公式メディアフレームに対する反応を把握することができた。

コメント欄では、具体的な政策決定に関する議論よりも、国家-外交レベルで全般的な観点から2019年香港デモについて語られる現象が見られるようになった。6月から10月にかけて、「警察」と「示威者（デモ参加者）」に焦点を当て、中米関係にはほとんど触れなかった香港メディアのフレームと比較すると、「共青团中央」のコメント欄では、「美国（米国）」から「警察」へと徐々に方向転換しており、中国本土の公式メディアフレームと一致する。

メディアフレームは、視聴者の言葉の使い方にも影響を与えた。例えば、「支持〇〇（〇〇を支持する）」のように態度を表明したり、デモ参加者を「暴徒」と呼ぶなどの言語習慣は、本稿が調査した中国メディアのコメント欄に特有の中国特有の言語現象である。さらに、メディアのフレームワークにおけるアジェンダセッティングは、視聴者が何を話題にし誰を支持するかにも影響する。例えば、6月から8月前半まではアメリカへの批判が多かったが、8月から主要議題が警察となり、コメント欄において香港警察を支持するという意見が多く見られ始めた。

また、政治的イデオロギーや政治的価値観について、民主や自由といった価値観への支持よりも、ナショナリズムや権威主義を支持するようなコメントが顕著に多かった。コメントに表れた傾向を、イデオロギー分析の視点から考察するならば、以下のことが言える。コメントの分析からは、民主や自由といった価値観への支持表明よりも、「中国」「アメリカ」「香港警察」といった国家を単位とした支持や不支持の表明が多いことが明らかとなった。「自由」はコメントにおいても表れる頻度が高かったが、それはアメリカへの不支持を表明するために多く使用されていた。このように、「民主」や「自由」という価値観を主なスローガンとした2019年の香港デモ運動に対して、問題を国家を単位として捉え、自国を支持し他国を批判する傾向が、本稿が調査した中国メディアのコメント欄には顕著であった。それに対し、香港の立法修正に関する政治的議論はほとんどなされなかった。このことは、この問題を国際政治から報じる中国メディアのフレームに、コメントが影響されていたことを示している。このようなコメントの傾向、および国営メディアとの関係性は、ナショナリズムおよび権威主義と位置づけられてもやむを得ないものであろう。つまり、香港の立法修正に関する政治的な議論をせず、国家レベルに基づき他国の民主や自由をからかうコメントから、政治的価値観よりもナショナリズム側面から報道内容に反応したのが特徴であると考えられる。

第6章. まとめ

政治・外交のニュースは一般のニュースと違って、知識の蓄積がなければ理解するのは簡単ではない。また、権威主義体制の国では、人々がデモに参加したり目撃したりする経験がほとんどないため、デモの目的や原因、経過に関する情報の獲得はメディアの報道に大きく依存していると言える。それでは、権威主義体制の中国では、メディアがどのようにデモに関連する情報を提示し、人々がメディアの提供する情報にどのように反応し、政治的世論を形成しているのか。

1. 研究の結果

本研究は合計 456 本の動画内容や 42 万件のコメントをデータにし、テキストマイニングによって単語頻度分析と共起頻度統計を行い、2019 年香港デモに対する中国本土のメディアフレームの存在とそのフレーミング効果を検証した。その結果は、下記の通りである。

まず、中国本土のフレームについて、国家外交の次元から議論が始まり、6 月から 7 月にかけて米国の存在が強調され、8 月以降は警察とデモ参加者の衝突が強調されたなど、アジェンダのセッティングに変化が見られるようになった。その上、常に強調されていたのはデモの暴力性と社会安定の重要性であった。現場映像の使用においては最小限にとどめ、抗議のスローガンやポスターの内容を提示しない傾向にあった。態度の表現において、「支持-譴責（非難）」の枠組みが多く使用された。

次に、コメント欄との比較分析を行い、議論が展開される国家・外交レベル、話題の変容とその変更時点はフレームに一致した特徴が見られ、アジェンダセッティングの有効性とフレームの誘導性が確認された。特に、香港デモと米国のつながりは中国本土に特有するフレームの重要な一環として、デモの起因に対する判断に介入しただけではなく、「民主」や「自由」に関わる語り方にも影響を与えたと隣接語の分析から推測できる。

最後に、「民主」の言語使用から、「米国の民主」「西方の民主」「中国の民主」のように「民主」を国ごとに区分する傾向が見られた。視聴者は政治的価値観よりもナショナリズム側面からデモに関する報道内容に反応したのが特徴である。そのため、主旨が民主を問う質すデモだとしても、既存の「中国は民主である」という認識を害しない可能性があるかと推測する。これに関しては、DPI2019-2020 の調査結果とも整合すると考えられる。

2. 考察および本研究の限界

この研究の目的は、中国本土のメディアフレームがいかに効果的であることを示すことではなく、デモに関わる事件においてそのフレームがどのような点で効果的であることを示すことにある。公式メディアからの情報だけでは、2019 年香港デモに対するイメージは、おそらく 6 月初旬に異常に突発した、米国の援助による、民主と自由を装った香港独立のための暴力的なデモというものであっただろうと思われる。しかしながら、実際にはもっと前の 3 月から、平和的なデモが何度も行われており、6 月はデモの始まりとは言えないのである。このように、視聴者が原因や結果を知らず、直接観察することもできない抗議運動について、中国本土のメディアフレームは、国民の愛国心を動員し、支配政権の正当性を獲得する上で顕著な効果を発揮していると言える。

コメント欄の分析では、民主主義を概念そのもので語っていたのに対し、7 月以降は、例えば欧米の民主主義とアメリカの自由といったように、国レベルの概念で比較するようになるという変化が見られた。この思考の枠組みが、国家・ナショナリズムの次元に基づいて、何が民主的で何が自由であるかを考えさせる傾向がある可能性を示唆している。これに関しては、DPI2019-2020 の調査結果とも整合すると考えられる。中国の政治的背景を考えると、「今の自分の国を考えてみてください。どの程度民主的だと思いますか？ (Think about your country today. How democratic do you think it is?) 」と聞かれた中国本土の回答者が考える民主とは、DPI の研究者が考える民主とは同じ言葉であるものの、異なる意味を示すと考えられる。なぜかという、

中国における民主主義は、中国の政治的文脈の中で中国共産党の政治的言説に含まれており(陳 2005、孫 2007 ; 江口,2018) 、中国人は権威主義と民主主義の共存を特徴とする民主観を持っており(池, 2015) 、欧米の文脈における民主主義と大きく異なるからである。さらに、本研究の結果が示すように、中国メディアは、デモ行進者の政治的要求を情報源から排除し、話題を国家フレームと国際関係問題へと誘導したため、香港デモに対する中国本土の国民の認識は、権威主義と民主主義の矛盾性よりも国家主権と社会の安定を守るべきだという思考の枠組みに留まっていたと推測できる。つまり、本研究は、なぜ約9カ月に及んだ香港のデモが中国本土の人々の、自国の民主主義に対する認識を低下させなかったのかという問いに答えたと言えるだろう。

この研究の限界については、世論と政治的態度との距離、および反対意見を持つ人々がこのフレーミングに対してどのように反応するかという2つの側面が挙げられる。コメント欄をデータとして使うということは、せいぜい世論とメディアのフレームとの関係や、コメントを残そうとする人がメディアのフレームにどう反応するかについての結論を得るに過ぎない。しかし、本研究の結果は、メディアが人々のコメントの仕方に影響を与え、中国国民にこれが国家レベルの問題であると思わせることによって、いかにコメントを喚起したのかを示したのである。さらに、コメント欄は香港デモに関する「中国で目に入る言論」であり、それは人々の思考に影響を与えるメディアコンテンツと言えるだろう。視聴者が放送内容に反する考えが生じて、コメント欄を見て大多数の人はそう考えているのだと理解する可能性もあると考える。これもまた特定の考え方の方向性を強めることになると思われる。

3. 今後の課題

このようなメディアにより提示されたフレームの危険性について述べたい。本研究は、中国の民主主義のあり方を軽んじるものではなく、こうした報道の枠組みが市民生活や外交関係に及ぼす影響の一端を論じることとどめるものである。中華人民共和国「憲法」第35条「中華人民共和国国民は、言論、出版、集会、結社、行進及び示威の自由を有する」によれば、中国におけるデモは本来、法律に違反するものではない。しかし、そのような考え方の枠組みが長期にわたって伝播されれば、「デモ」という政治的行為が暴力的でネガティブな社会的イメージを生み出すことになりかねないのである。政治的意見の表明方法の一つとして、それが暴力的で社会の安定に有害であると言われ続けられれば、人々はデモに対して偏見を持つようになるのか、他の市民はデモ参加者の政治的要求に耳を傾けるのか、やりすぎだと感じるのかと考えられる。この微妙的な影響が、人々の認識に影響を与え、長期的には市民の正常な政治的表現に影響を与えるのではないかと思う。

さらに、2019年香港デモの場合、国家主権問題という大きな枠組みの中で、「民主」への思考は影を潜め、中国本土の人と香港人の間に大きな認識のズレと怒りが生まれたのである。YouTubeで北京語と香港語のコメントを見てみると、ほとんどコミュニケーションをとっておらず、むしろお互いへの怒りを表現していることがわかる。中国の漢字で相互に理解できる言葉であったとしても、簡単な「香港警察を支持する」という言葉は、実質的なコミュニケーションを排除してしまう。中国本土において、香港デモの事件は愛国心を煽るのに効果的であったが、兩岸の人々の間に無理解と敵意さえも増長させる結果となったと考えている。

最後に、この研究は香港問題をめぐる中国本土の人の怒りがどこから来るのかを明らかにすることで、そのフレームの効果とその危険性を含めて示唆したい。ナショナリズムは問題解決のための最良の選択肢ではないと考え、怒りの壁を超え、人々が合理的に議論し、中国本土と香港の外交関係を促進するように、より適したメディアフレームに関する検討が今後の研究の課題である。また、言論審査の影響もあるため、不適切なコメントだと判断されるものはデータベースに入らないことも事実である。それらのデータはフレーミング効果研究を洗練させるために重要であり、それも今後取り組んでいく課題である。

参考文献

〔英語〕

- Andrew Heywood(2002).*Politics*, New York:Palgrave.
- Branton, R., V. Martinez-Ebers, T. E. Carey, and T. Matsubayashi(2015). Social protest and policy attitudes: The case of the 2006 immigrant rallies. *American Journal of Political Science*, 59, 390-402.
- Chong, D., & Druckman, J. N(2007). A theory of framing and opinion formation in competitive elite environments. *Journal of Communication*, 57(1), 99-118.
- de Vreese, C. H., Boomgaarden, H. G., and Semetko, H. A(2011). (In)direct Framing Effects: The Effects of News Media Framing on Public Support for Turkish Membership in the European Union. *Communication Research*, 38(2), 179-205.
- Gitlin,Todd(1980).*The Whole World is Watching: Mass Media in the Making and Unmaking of the New Left*,Berkeley: The University of California Press.
- Hertog, J. McLeod, D(1995). Anarchists wreak havoc in downtown Minneapolis: A multi-level study of media coverage of radical protest. *Journalism Monographs*, 151.
- James W.Tankard, Jr(2001).*The Empirical Approach to the Study of Media Framing*, Routledge.
- Joseph N. Cappella, Kathleen Hall Jamieson(1997).*Spiral of Cynicism: The Press and the Public Good*,Oxford University Press.
- Jacoby,W.G(2000).Issue framing and public opinion on government spending.*American Journal of Political Science*,750-767.
- Jason Wu,Tianguang Meng(2017).The Nature of Ideology in Urban China,*21st Century China Center Research Paper*,No.08.
- King,G.,Pan,J., and Roberts,M.E.(2013).Howcensorship in China allows government criticism but silences collective expression. *American Political Science Review*,107(2),326-343.
- Kuang X. (2018). Central state vs. local levels of government: Understanding news media censorship in China. *Chinese Political Science Review*, 3(2), 154-171.
- Kuang, X., Wang, H. (2020). Framing international news in China: An analysis of trans-edited news in Chinese newspapers. *Global Media and China*, 5(2), 188-202.
- Lu, Y., Chu, Y., and Shen, F.(2016). Mass media, new technology, and ideology: An analysis of political trends in China. *Global Media and China*, 1(1-2), 70-101.
- Luther C., Zhou X. (2005). Within the boundaries of politics: News framing of SARS in China and the United States. *Journalism and Mass Communication Quarterly*, 82(4), 857-872.
- Ma,Lu(2020).Media Framing Effects in Foreign Policy Issues: An Experimental Study on China-U.S. Trade War. *Chinese Journal of Journalism & Communication*,42(5),99-120.
- Morley, D. (1976). Industrial conflict and the mass media. *Sociological review*,24,245-268
- Nelson,T.E.,Clawson,R.A.,Oxley,Z.M.(1997).Media framing of a civil liberties conflict and its effect on tolerance.*American Pelitical Science Review*,91(3),567-583.
- Nelson,T.E.,Oxley,Z.M,Clawson,R.A.(1997).Toward a psychology of framing effects.*Political Behavior*,19(3),221-246.
- Pan, Jennifer, Yiqing Xu(2018)China's ideological spectrum,*The Journal of Politics*,80:1, 254-273.
- Pan Z., Chan J. M. (2003).Shifting journalistic paradigms: How China's journalists assess “Media Exemplars”. *Communication Research*, 30(6), 649-682.

- Schuck, A. R. T., and de Vreese, C. H.(2006). Between risk and opportunity: News framing and its effects on public support for EU enlargement. *European Journal of Communication*, 21(1), 5-32.
- Shah, D., Kwak, N., Schmierbach, M., and Zubric, J(2004). The interplay of news frames on cognitive complexity. *Human Communication Research*, 30(1), 102-120.
- Shen, S.(2007).*Redefining nationalism in modern China:Sino-American relations and the emergence of Chinese public opinion in the 21st century*. Hampshire, UK: Palgrave Macmillan.
- Slothuus, R. (2008). More than weighting cognitive importance: A dual-process model of issue framing effects. *Political Psychology*, 29, 1-28.
- Stockmann, D. and M. E. Gallagher(2011). Remote control: How the media sustain authoritarian rule in china. *Comparative Political Studies*,44(4), 436-467.
- Tankard, J., Hendrickson, L., Silberman, J., Bliss, K. and Ghanem, S. (1991),*Media Frames: Approaches to Conceptualization and Measurement*. paper presented at the Association for Education in Journalism and Mass Communication,Boston, MA.
- Wallace, S. J., C. Zepeda-Milla'n, and M. Jones-Correa(2014). Spatial and temporal proximity: Examining the effects of protests on political attitudes. *American Journal of Political Science*,58(2), 433-448.
- Wu,Angela Xiao(2013)Ideological Polarization Over a China-as-Superpower Mindset: An Exploratory Charting of Belief Systems Among Chinese Internet Users, 2008-2011. *International Journal of Communication*, No.8,2243-2272.
- Yinan He(2007).History,Chinese nationalism and the emerging Sino-Japanese conflict.*Journal of Contemporary China*,16(50),1-24.
- Zhang,Han(2016).Physical Exposures to Political Protests Impact Civic Engagement: Evidence from 13 Quasi-Experiments with Chinese Social Media.
<http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.2647222>.(2022年10月19日閲覧)
- Zhao Y. (2000). From commercialization to conglomeration: The transformation of the Chinese press within the orbit of the party state. *Journal of Communication*, 50(2), 3-26.

〔日本語〕

- 萩原滋(2007).「フレーム概念の再検討--実証的研究の立場から」,『三田社会学』,12,43-59.
- 西茹(2008).『中国の経済体制改革とメディア』集広舎.
- 江口伸吾(2018)「現代中国における『協商民主』の展開と国家ガバナンスの再構築：基層社会の『民主懇談』、『郷賢参事会』を事例にして」,『北東アジア研究』,29,53-69.
- 工藤文(2014).「内容分析による中国の新聞管理制度の考察：『新京報』主管・主単位の変更を事例に」,『早稲田政治公法研究』,105. 1-16.

〔中国語〕

- 陈家刚(2005).「協商民主：概念、要素与价值」,『中共天津市委党校学报』,3, 54-60.
- 池上新(2015).「市场化、政治价值观与中国居民的政府信任」,『社会』,35(2),166-191.
- 马得勇,黄敏璇 (2021).「可得性与一致性——认知心理学视角下中国民众民主观再审视」,『探索与争鸣』,10(1),108-119.
- 孙照红(2007).「选举民主和协商民主：中国特色的双轨民主模式」,『唯实』,7,33-36.
- 燕继荣(2016).『政治学十五讲』,北京大学出版社,2016年第一版.

〔ホームページ〕

Bilibili inc(2022).Bilibili Inc. Announces First Quarter 2022 Financial Results.

<https://ir.Bilibili.com/media/vfpdcsem/2022q1Bilibili-inc-announces-first-quarter-2022-financial-results.pdf>(2022年10月19日閱覽)

Alliance of Democracies(2019).Democracy Perception Index 2019.

<https://www.allianceofdemocracies.org/initiatives/the-copenhagen-democracy-summit/dpi-2019/>(2022年11月15日閱覽)

Alliance of Democracies(2020).Democracy Perception Index 2020.

<https://www.allianceofdemocracies.org/initiatives/the-copenhagen-democracy-summit/dpi-2020/>(2022年11月15日閱覽)

Ramzy, Austin, Elaine Yu and Keith Bradsher(2019).Record Turnout in Hong Kong Vote After Months of Protests and Rising Violence. New York Times .

<https://www.nytimes.com/2019/11/23/world/asia/hong-kong-election-protests-district-council.html>
(2022年10月19日閱覽)

謝辞

本研究の作成にあたり、多くの方々にご協力いただきました。指導教員として研究会で終始多大なご指導やご指摘をいただいた小熊英二先生に深謝いたします。論文の作成にあたり、副査としてご助言をいただきました宮代康丈先生と鄭浩瀾先生に感謝申し上げます。最後に、様々なアドバイスや提案をしていただいた研究会のメンバー、コーディングに手助けいただいた知人にも感謝いたします。

付録

付表 1

付表 1 報道タイムライン

放送日	新聞聯伝	共青团中央	事件	ケーブルニュース
6月13日			612 金钟集会	逃犯條例二讀 (12/6) - 示威者大規模 衝擊警多次放催淚彈 逃犯條例二讀 (12/6) - 示威者攻入示 威區警發射布袋彈 逃犯條例直播 (12/6) - 民陣代表晤傳 媒 逃犯條例直播 (12/6) - 示威者仍佔據 金鐘中環一帶 逃犯條例直播 (12/6) - 示威者佔據龍 和道阻礙交 逃犯條例二讀 (12/6) - 晚上警方多輪 密集施放催淚 逃犯條例二讀 (13/6) - 立法會今明兩 天不開會 逃犯條例二讀 (12/6) - 大批市民通宵 於政總立會外聚集 逃犯條例直播 (12/6) - 警方與示威者 在政總外對峙 逃犯條例二讀 (13/6) - 大律師公會批 警對示威者過份武力 逃犯條例二讀 (13/6) - 有 Telegram 群 組 管理員被拘捕
6月14日	中方強烈反對美粗暴干涉香港事務	商務部: 如果美方繼續升級貿易摩擦 中方將奉陪到底 外交部: 香港金鐘不是和平集會, 而是有組織的暴動 支持特 区政府依法處置		逃犯條例直播 (13/6) - 政總附近中信 大廈天橋 逃犯條例示威 - 為何上前線?

6月15日	<ul style="list-style-type: none"> · 香港特区政府决定暂缓修订《逃犯条例》工作 · 国务院港澳办发言人就香港修例问题发表谈话 · 外交部发言人就香港修例问题发表谈话 · 人民日报评论员文章：坚定支持行政长官和特区政府依法施政 	中方强烈反对美粗暴干涉香港事务		<p>逃犯條例(14/6) - 廿多名前高官立會議員 籲撤逃犯條例</p> <p>逃犯條例 (14/6) - 一批媽媽集會反對修</p> <p>逃犯條例 (14/6) - 陳智思指政府要考慮如何處理逃犯例</p>
6月17日				逃犯條例遊行 (16/6) - 市民上街由天光行到天黑
6月22日				<p>警察總部被包圍 - 示威者散去警於警總 通宵清障礙物</p> <p>警察總部被包圍 - 警察總部內十三人不適送院</p> <p>警察總部被包圍 - 被困警務人員離開警察總部</p>
6月27日				<p>警察總部 - 大批示威者警察總部外聚集</p> <p>警察總部 - 警完成警總外清場港島交通回復</p>
7月2日	<p>香港举办文艺晚会庆祝回归祖国 22 周年</p> <p>香港特区政府及各界强烈谴责暴力冲击立法会行为</p> <p>国务院港澳办发言人就香港发生暴力冲击立法会事件发表谈话</p> <p>外交部：有关国家对香港事务指手画脚是双重标准</p> <p>【央视快评】 香港的法治不容挑战</p> <p>人民日报评论员文章：坚决支持特区政府对严重违法行为追究到底</p> <p>新华时评：依法严惩暴力分子 维护香港繁荣稳定</p>	<p>【香港】 强烈谴责极端暴力行为 林郑月娥：对违法行为将追究到底</p> <p>虚伪！如果发生在美国或者欧洲，他们会听之任之吗？</p>	71 冲入立法会	<p>立法會衝擊 - 示威者衝擊立會撞毀玻璃進入大樓</p> <p>立法會示威 (1/7) - 示威者堵塞龍和道夏慤道</p> <p>金鐘衝突 (1/7) - 警方用胡椒水劑及警棍驅散示威者</p>
7月3日	<p>香港各界谴责暴力冲击立法会事件</p> <p>【央视快评】 稳定才是香港发展的根本保障</p>	<p>人民日报：坚决支持特区政府对严重违法行为追究到底</p> <p>外交部：亨特涉港错误言论厚颜无耻！</p>		

7月4日	香港警方拘捕 27人 涉多项罪行 【央视快评】爱国爱港是正道			
7月5日		耿爽：我今天姑且克制一些，再执迷不悟，一错再错，恐怕就要再说道说道了。		
7月7日				屯門遊行釀衝突警一度噴胡椒噴霧有 開設歌舞檯女子一度被包圍
7月8日				旺角清場 - 示威者昨佔據彌敦道警 武力驅散
7月9日				旺角清場 - 警方推進與記者發生推 撞全程 - 譚文豪、區諾軒要求見指揮 官
7月14日		主权不可侵犯，内政不容干涉！		上水遊行 - 市民光復上水警晚上包 抄式清場
7月15日				沙田衝突 - 沙田昨晚爆發衝突逾四 十人被捕 沙田清場 - 警方沙田源禾路一帶清 場多人被捕
7月16日		耿爽“克制”的用四个成语评论这个非外交问题耿爽“克制” 的用四个成语评论这个非外交问题		
7月20日	香港各界举行“守护香港”大型集会 人民日报评论员文章：共同反对暴力 珍惜法治秩序 【新华时评】齐心反暴力 共同护香港			
7月21日	香港各界支持“守护香港”行动 【央视快评】尊重主流民意 维护香港安宁			

7月22日	<p>国务院港澳办发言人就香港激进示威者围堵香港中联办表示强烈谴责</p> <p>香港中联办就激进示威者围堵表示严厉谴责</p> <p>香港特区政府发言人强烈谴责激进示威者冲击中央政府驻港机构</p> <p>香港各界强烈谴责激进示威者围堵香港中联办暴行</p> <p>人民日报评论员文章：中央权威不容挑战</p> <p>【央视快评】乱港分子的图谋决不可能得逞</p>	<p>【新闻联播】乱港分子的图谋决不可能得逞！！</p>		
7月23日	<p>外交部回应美涉港言论：奉劝趁早收回在香港伸出的黑手</p> <p>外交部驻港公署发言人敦促美方停止向暴力不法行为发出错误信号</p> <p>香港民众严厉谴责激进示威者冲击中央政府驻港机构</p>	<p>《新闻联播》曝光暴徒乱港画面：污损国徽；香港各界强烈谴责激进示威者围堵香港中联办暴行</p> <p>特警张劫的一天【中国 YOUNG 计划】</p>	721 游行	<p>721 元朗黑夜：重整襲擊事件全過程 (第一節) 元朗白衣人打人</p> <p>721 元朗黑夜：重整襲擊事件全過程 (第二節) 元朗白衣人打人</p> <p>元朗站有人追打乘客 45 傷 1 危殆</p> <p>白衣人士聚集南邊圍村警察布防</p> <p>警指南邊圍村無人持武無拘捕人</p> <p>元朗衝突前 區議員已通知警方</p>
7月24日	<p>香港各界强烈谴责外国势力干预香港事务</p> <p>【国际锐评】香港绝不能容忍外部势力兴风作浪</p>	<p>【华姐上班第一天】中国外交部 奉劝美国趁早收回在香港的黑手</p>		
7月25日	<p>香港各界谴责暴行影响经济民生</p>	<p>【新闻联播】香港绝不能容忍外部势力兴风作浪</p>		
7月28日				<p>元朗 727 衝突 - 警南西邊圍村與示威者激烈衝突 一輛泊在南邊圍村口的私家車被十多人毀壞</p>
7月29日	<p>国务院港澳办新闻发言人就香港当前局势表明立场和看法</p>			<p>728 西上環一帶街頭衝突至少 49 人被捕 有示威者在旁邊的摩利臣街燃燒一架手推車</p> <p>728 衝突 - 警方谴责示威者激進行為 越演 越烈 形容有示威者到處縱火 用致命武器 襲擊警察</p>
7月30日		<p>把香港些极端暴力分子搬到美国, 让美国展示一下他的民主, 怎么样?</p>		

7月31日				包圍葵涌警署 - 市民包圍葵涌警署 與警方發生衝突 期間有警員手持霰 彈槍指向 市民
8月2日	香港警方：坚决打击暴力行为维护法治	华春莹：希望这样的“风景线（示威游行）”在美国越多越 好		沙田及馬鞍山警署 - 市民警署聲援 被捕人士警到場驅趕 有三人被截查 包括一名私家車司機
8月3日				馬鞍山警署 - 示威者晚上再包圍馬 鞍山 警署 有市民在商場天橋指罵 速龍向他們發射胡椒彈 沒有舉旗警 示 公務員集會促政府回應社會訴求 大 會表示有超過四萬人參與 警方估計 高峰時有一萬三千人
8月4日 初めて国旗	国务院港澳办发言人严厉谴责香港极端激进分子侮辱国旗行径 香港中联办严厉谴责极端激进分子侮辱国旗行径 香港各界谴责极端激进分子侮辱国旗行径 人民日报评论员文章：坚决支持香港警方严正执法制止暴力 【央视快评】香港不能无休止乱下去！ 新华时评：底线不容触碰 —— 谁破坏“一国两制”谁就将受 到历史的审判	香港不能无休止乱下去！不是不报，时间未到。		黄大仙爆警民衝突警施放催淚彈 家 常用品用了來對抗催淚彈 旺角清場 - 示威者旺角警署外聚集 警方 清場 有示威者在與警方防線之 間燒木梯 及紙皮 有人將煙彈放入坑 渠 尖沙咀警署 - 示威者尖沙咀警署擲 物警 施催淚彈 數人合力用橡筋帶將 磚頭射入警署內
8月5日	林郑月娥：暴力升级 将香港推向危险境地 香港各界：用行动守护国旗表达爱国 爱港之情 人民日报评论员文章：坚定支持行政长官带领香港特区政府依 法施政	香港各界：用行动守护国旗 表达爱国爱港之情		有人在多個港鐵站發起不合作運動 有人不滿上班受阻 用滅火筒噴向數 名戴口罩的人 銅鑼灣衝突 - 示威者銅鑼灣灣仔堵 塞紅 隧行車線 警方在鬧市多次施放 催淚彈驅散 不合作運動 - 示威者多區警署外聚 集警 放催淚彈 有示威者指拾到超過 五十粒催 淚彈殼

<p>8月6日</p>	<p>国务院港澳办新闻发言人介绍对香港当前事态的看法 香港各界强烈谴责暴力乱港行径 人民日报评论员文章：“一国两制”底线不容挑战 【央视快评】五星红旗永远在香港高高飘扬</p>	<p>五星红旗，依旧飘扬！</p>	<p>黄大仙 - 示威者堵龍翔道警催淚煙驅散入夜後拆毀紀律部隊宿舍其中一度大鬧（視聽制限） 不合作運動 - 示威者晚上沙田警署外縱火防暴警察在警署平台嘗試向火堆射水</p>
<p>8月7日</p>	<p>国务院港澳办和中央政府驻港联络办 共同举办香港局势座谈会 人民日报评论员文章：爱国爱港是香港社会主流 【央视快评】止暴制乱 恢复秩序</p>	<p>少数乱港暴徒所欠的债迟早是要还的！</p>	<p>深水埗警署 - 警方放催淚彈驅趕聲援方 仲賢市民 拘捕最少五人 包括一名沙田區議員 深水埗警署 - 記者周一在深水埗警署外拍攝警方的清場行動時額頭受傷 警方為記者受傷事件致歉</p>
<p>8月8日</p>	<p>林郑月娥视察香港公众街市和警署 香港各界：凝聚力量 尽快摆脱暴乱 人民日报评论员文章：稳定繁荣是香港市民之福</p>	<p>光头警长：“只恨他们也是中国人”央视主播：挺刘 sir! 香港不能无休止乱下去，香港 700 万同胞不答应，14 亿中国人民也不答应！ 香港各界：凝聚力量 尽快摆脱暴乱</p>	<p>催淚彈 - 社工冀釋放催淚彈顧及附近環境 有些更射到安老院舍</p>
<p>8月9日</p>	<p>林郑月娥：与商界共同努力走出经济困境 香港警方：中央对港精神提振警队士气 香港社团呼吁全港民众止暴制乱 英国商界人士：任何国家都无法容忍暴力 民航局向香港国泰航空发出重大航空安全风险警示 世警会开幕 观众为香港警队加油 人民日报评论员文章：外部势力干预是香港社会之祸 【央视快评】反暴力 护法治 促和谐</p>	<p>中国香港警察入场，全场雷鸣掌声 【港警加油！】全国各地的警察消防员为香港警察同行打气 【新闻联播八连发】香港警方：中央对港精神提振警队士气</p>	<p>「帝吧」 VS 「粉蛆」：重組網絡大戰細節</p>

8月10日	<p>香港民众参加“全民撑警日”活动</p> <p>香港中小企业感谢特区政府支持纾解困难</p> <p>激进分子扰乱香港机场引发市民指责</p> <p>香港各界人士联署呼吁：香港不能再乱下去了</p> <p>人民日报评论员文章：发展经济改善民生是香港社会之本</p>			
8月11日	<p>香港各界呼吁停止暴力恢复经济民生</p> <p>香港各界支持民航局向国泰航空发出警示</p>	中国早已不是 1842 年的中国！		<p>示威者多區堵路警尖沙咀放催淚彈</p> <p>一名女子在彌敦道被警員制服 引起現場人士不滿</p>
8月12日	<p>国务院港澳办：坚决依法打击暴力犯罪行为</p> <p>香港中联办：严厉谴责极端违法暴力行径</p> <p>香港各界强烈谴责极端违法暴力行径 力挺警察</p> <p>香港工商界呼吁贯彻中央精神 尽快止暴制乱</p> <p>【央视快评】依法严惩恐怖暴行 坚决恢复香港秩序</p> <p>新华时评：必须将乱港暴徒绳之以法！</p>	<p>国务院港澳办：香港示威者出现恐怖主义的苗头！</p> <p>新闻联播：天若欲其亡，必先令其狂！</p>	811 晚尖沙咀	<p>荃灣兩批群眾在二陂坊衝突 現場不斷傳出玻璃樽爆裂聲音</p> <p>811 尖沙咀警署外催淚彈驅散示威者</p> <p>有示威者右眼球爆裂 失去視力</p> <p>811 銅鑼灣有黑衣人助警制服示威者</p> <p>之後登上一輛小巴 有線新聞翻查這輛小巴的車牌 發現是由政府登記</p> <p>811 太古站警察追打示威者制服多人</p> <p>一名持英國旗的婆婆被制服</p>
8月13日	<p>林郑月娥：反对暴力，维护法治。</p> <p>外交部驻港公署敦促美国议员与极端暴力分子划清界限</p> <p>华侨华人谴责暴徒在香港制造混乱</p>	<p>混剪爆燃视频 邪不压正！阿 Sir，14 亿同胞撑你！</p> <p>【新闻联播】必须将乱港暴徒绳之以法！</p> <p>欧阳夏丹：你们离凉凉不远了</p>		

<p>8月14日 初めて衝突のシーン使用</p>	<p>国务院港澳办强烈谴责香港机场严重暴力行径 香港中联办强烈谴责香港机场严重暴力行径 中华全国新闻工作者协会发表声明 强烈谴责围殴与非法禁锢记者严重暴力行径 香港特区政府发言人：暴徒殴打旅客及记者的暴力行径令人发指 香港各界严厉谴责香港机场严重暴力行径 爱国爱港人士看望慰问《环球时报》记者 香港商界知名人士纷纷呼吁共同制止暴制乱 【央视快评】以更有力的行动制止暴制乱</p>	<p>“我支持香港警察，你们可以打我了！” 写给香港警察的歌 香港中联办：暴行已经与恐怖分子的暴行无异！ 看看那些年香港人是怎么对待国旗的！ 【新闻联播】坚决剔除这些天怒人怨的“老鼠屎”！</p>	<p>813 香港机场记者</p>	<p>機場示威者包圍內地人警一度舉槍；示威者發現有內地人混入 搜尋後認為他是公安 機場示威者用索帶將環時記者綁於行李車 立法會議員張超雄和郭家麒調停 記者最後由救護員送院*</p>
<p>8月15日</p>	<p>专家：以法治凝聚香港社会共识 多个在港社团举行联合记者会 强烈谴责暴力乱港行为 香港媒体人士呼吁警方采取措施制止暴力行径 香港特区政府宣布支持企业和市民的措施 新华时评：遏止暴力乱象才能挽救香港营商环境 “五星红旗有 14 亿护旗手” 阅读量超 50 亿人次</p>	<p>【这一周 第三季 24】香港，不能再乱下去了 【粤语】香港，邪不压正！ 【超燃警方说唱 · 撑港警！】全国警察合唱 RAP 撑港警 SKR-</p>		<p>深水埗 - 大批市民深水埗聚集 警署門外燒衣紙、撒冥錢、用鎗射筆 警員施放多輪催淚彈惹居民不滿</p>
<p>8月16日</p>	<p>香港金融界人士：反对暴力 恢复秩序 香港各界强烈谴责机场暴力事件 香港各界欢迎特区政府经济举措 新华时评：稳定人心破困局 提振信心 再出发——香港能挺住！</p>	<p>香港不该变这样！市民呼吁示威者反思</p>		<p>李嘉誠在多份報章登廣告反對暴力 再次引用「黃台之瓜，何堪再摘」</p>

<p>8月17日</p>	<p>香港各界举行“反暴力 救香港”大集会 全国人大外事委员会发言人就美国国会议员涉港错误言论发表谈话 四大会计师事务所发声谴责暴力 美国专家：处置暴力示威 美警方不手软 【央视快评】听一听香港民众的心声 新华时评：每一个爱国爱港的香港市民都是护港救港的关键力量</p>	<p>【洗脑循环】港警唐僧式喊话示威者 起底祸港四人帮！煽动年轻人上街，他们的孩子却没有一个走上街头 付国豪：希望大家能努力维护香港稳定，我爱香港 香港万人合唱国歌</p>		
<p>8月18日</p>	<p>香港社会各界齐声反对暴力 呼吁恢复 社会秩序 香港法律界人士强烈谴责机场暴力事件 香港教育界人士告诫青年勿被利用 香港茶餐厅老板娘：撑警 200%不后悔 内地青年：支持香港止暴制乱 维护社会繁荣稳定 海外华人留学生齐声谴责暴力 表达爱国爱港心声 【央视快评】止暴制乱的主流民意不可违</p>	<p>日本学者眼中的香港：相机被抢、强迫删照片，示威者就没想过和平解决</p>		
<p>8月19日</p>	<p>香港警队：恪尽职守 维护香港法治 香港各界人士呼吁止暴制乱 发展经济 多行业受影响 香港民生经济亟待复苏 多国人士谴责香港机场暴力事件</p>	<p>【是我给你自由过了火】留学生《过火》守护香港 新闻联播点名饭圈女孩、帝吧网友、海外留学生</p>		<p>818民陣流水式集會 參加者由維園行到中環遮打道；民陣：170萬人集會 警方：12.8萬人 818市民夏愨道政總外聚集主動散去 一名穿紅衣的男子在政總附近出現， 集會人士懷疑他是公安</p>

<p>8月20日</p>	<p>林郑月娥：将继续推出有效措施提振经济 改善民生</p> <p>香港各界青年谴责暴力 呼吁回归秩序</p> <p>外交部：加方无权妄议香港事务</p> <p>外交部驻港公署严正警告美方收手收声 香港事务不容置喙</p> <p>新华社评论员文章：看清香港乱局的由来和本质</p>	<p>【整明白没 第一集】如何把 170 万人塞进两个足球场里？</p> <p>答：攞起来！</p>	<p>兩名警員懷疑濫用私刑被捕 涉嫌在醫院病房 虐打一個被捕的六十二歲男子</p>
<p>8月21日</p>	<p>全国人大常委会法制工作委员会发言人驳斥美国国会一些议员涉港错误言论</p> <p>【国际锐评】美国某些人涉港狂妄言行将自食恶果</p> <p>香港妇女界代表呼吁青年爱家爱国</p> <p>香港各界呼吁恢复社会秩序 聚焦经济发展</p> <p>新华社评论员文章：香港不能再乱下去了</p>		
<p>8月22日</p>	<p>香港金融服务界：反对暴力 维护香港国际金融中心地位</p> <p>香港各界人士：抗议美国粗暴干涉中国内政</p> <p>英国学者：任何国家都不能容忍暴力行为</p> <p>新华社评论员文章：祖国，永远是香港发展的坚强后盾</p> <p>人民日报署名文章：收回黑手 悬崖勒马</p>	<p>混乱、撕裂、破坏、暴力，这就是你想要的香港吗？</p> <p>黑衣人元朗站闹事 港铁专列护送黑衣人离开</p>	<p>822 中學生反修例集會 - 愛丁堡廣場- 新聞直播</p> <p>元朗 821 - 市民元朗站靜坐演變成警民對峙 示威者在站內噴滅火筒 又在地上淋肥皂水</p>
<p>8月23日</p>	<p>相聚国旗下 香港青年在四川参观交流</p> <p>香港司机陈师傅：不要暴力 希望香港重回和谐安宁</p> <p>香港前刑事检控专员江乐士：香港人应该给予警方最大支持</p> <p>多国警务专家：对暴力示威果断执法 是警方职责所在</p> <p>新华时评：凝聚挺特首、挺警队、护法治的强大正能量</p>		<p>反修例風波 - 警員、前線示威者、中產示威者的心聲</p> <p>823 現場 - 人鏈運動「香港之路」各區現場直播 - 新聞直播</p>

<p>8月24日</p>	<p>全国港澳研究会举办“重温邓小平同志有关香港问题的重要讲话”专题座谈会</p> <p>香港的士司机发起“守护香港 风雨同舟”行动</p> <p>“守护香港家庭同乐日”启动 市民期盼恢复秩序</p> <p>香港市民抗议外国势力干涉香港事务</p> <p>香港警方谈判专家：望年轻人冷静思考</p>	<p>霸气！大爷菜刀清理乱港标语无人敢拦，你大爷永远是你大爷</p> <p>【整明白没 第二集】脸都不要了！香港大型“双标”现场！</p>	<p>824 遊行</p> <p>824 觀塘遊行 - 九龍灣、牛頭角、觀塘、德福廣場、偉業街及香港電台 (RTHK)現場直播</p> <p>直播 824黃大仙 - 香港新聞 - 有線直播 - 有線新聞 i-CABLE News</p> <p>824 觀塘遊行前港鐵關閉觀塘綫部分車站 乘客不滿</p> <p>824 觀塘遊行 - 警方偉業街施放催淚彈驅散示威者 速龍小隊在偉業街和兆業街轉角位舉槍 又警告記者</p>
<p>8月25日</p>	<p>香港警方及民众严厉谴责暴力行径</p> <p>香港举行“全港妇女守护家园大集会”</p> <p>香港教育界人士：通识教育存问题</p> <p>伍淑清：香港年轻人应开拓视野</p> <p>新华社评：重温邓小平关于香港问题的重要讲话 坚定维护香港特别行政区宪制秩序</p>	<p>香港教育界人士：通识教育存问题</p>	<p>香港 825 葵青遊行現場直播</p> <p>824黃大仙 - 防暴警放催淚彈驅散黃大仙示威者 一名男人手持菜刀 遇上防暴警察</p>
<p>8月26日</p>	<p>香港特区政府及警方严厉谴责暴力行为升级</p> <p>香港社会各界强烈谴责示威者暴力行径</p> <p>“爱港联盟”发起“强烈谴责美国粗暴干预中国香港内政”集会</p> <p>“希腊大叔”忠告香港年轻人停止暴力</p> <p>【央视快评】疯狂暴行令人发指 止暴制乱刻不容缓</p>	<p>香港警察遭示威者围堵鸣枪示警</p>	<p>荃灣 825 - 六警拔槍指人群曾向天開槍 (更新版) - 一批黑衣的示威者聚集在二陂坊他們撞毀一間麻雀館的鐵閘</p> <p>香港 826 深水埗、黃大仙、鴨寮街、欽州街現場直播</p> <p>荃灣 825 - 警方楊屋道放催淚煙出動水炮車 在大河道口行人天橋上 有人向警員擲燃燒彈</p>
<p>8月27日</p>	<p>外交部：七国集团莫对香港事务指手画脚</p> <p>林郑月娥：特区政府会继续依法止暴制乱</p> <p>香港各界强烈谴责暴力行径</p> <p>大湾区建设是港澳青年的黄金机会</p> <p>新华社播发新华社评《与香港青年书：向暴力说不，守护香港和你们的未来！》</p>	<p>他们这些套路，TVB 早就说的很清楚了</p>	<p>警方記者會直播 - 江永祥、謝振中、戚夏瑜、李桂華</p>

<p>8月28日</p>	<p>开国元勋朱德总司令大型展览在香港开幕</p> <p>香港各界谴责暴力 呼吁恢复秩序</p> <p>英警务专家：应对暴力示威 英警方执法严</p> <p>一位香港妈妈的心声：让校园回归清静</p>	<p>哈哈！警察要来，非法示威者反起了内江打作一团</p> <p>【整明白没 第三集】香港“群演”演技太差，连续刷视频穿</p> <p>一位香港妈妈的心声：让校园回归清静吧！</p>		<p>警方記者會直播 - 20190828</p>
<p>8月29日</p>	<p>香港青年代表呼吁恢复秩序 把握发展机遇</p> <p>吴嘉惠：在粤港澳大湾区努力追梦</p> <p>英知名学者：香港暴力示威受外部煽动</p> <p>【央视快评】尽快让香港安定下来</p> <p>解放军驻香港部队完成第 22 次轮换</p>	<p>【专访香港女大学生】歪理狡辩美化暴力，中大女生自曝逻辑混乱极无知</p> <p>一位香港妈妈：儿子，煲好的汤还温着，回家吧</p>		<p>民間記者會直播 - 岑放暉、梁麗嫻、馮炳德 - 20190829</p> <p>警方記者會直播 - 20190829</p> <p>828 團體集會追究警方涉性暴力行為大會指有三萬人出席</p>
<p>8月30日</p>	<p>香港青年聊发展 谈未来 把握粤港澳大湾区发展机遇</p> <p>香港警方拘捕多名涉嫌参与近期暴力 犯罪活动的人员</p> <p>香港律师：坚守法治 走出社会纷争</p> <p>香港各界谴责暴力升级 呼吁恢复秩序</p> <p>法国专家：暴力示威者妄图毁掉香港</p> <p>人民日报评论员文章：绝不允许暴力 绑架香港未来</p> <p>赴内地升学港生持续增加 高校暖心迎新</p>	<p>【新闻联播】香港青年代表呼吁恢复秩序 把握发展机遇</p> <p>【香港神剧】完全一致，大预言家</p>	<p>830 逮捕</p>	<p>警方記者會直播 - 20190830</p> <p>829 警方於深水埗及沙田驅散制服多人</p>

<p>8月31日</p>	<p>香港各界支持特区政府和警方严正执法</p> <p>外交部驻港公署强烈谴责美国 欧盟部分政客颠倒是非的言论</p> <p>【央视快评】对以身试法者必须绳之以法</p> <p>香港青年代表呼吁抓住国家发展机遇 加强历史教育</p> <p>国际锐评：把香港问题作为经贸谈判 筹码的企图不会得逞</p>	<p>曾经在乌克兰上演的这一幕，休想在香港得逞！</p> <p>现在看来，今天的香港，完全是按照剧本在走</p>	<p>831 游行</p>	<p>香港 831 銅鑼灣、灣仔港島現場直播</p> <p>香港 831 太子、黃大仙、油麻地、觀塘、旺角、尖沙咀、銅鑼灣、天后、灣仔、北角、金鐘、中環現場直播</p> <p>831立法會、政總 - 警方出動水炮車 催淚 彈驅散示威者 首次發射藍色水</p>
<p>9月1日</p>	<p>香港特区政府及警方严厉谴责违法暴力事件</p> <p>香港社会各界强烈谴责暴力升级</p> <p>香港迎来开学日校方做好开学前准备工作</p> <p>欧阳风盈：快闪清洁行动 还香港一片洁净</p> <p>新华社评：依法制暴是当下香港最大 公义最大天理 最大民声</p> <p>中央广播电视总台粤港澳大湾区之声 正式开播</p>	<p>香港大爷将暴徒打出车厢</p> <p>逆风之战——一位一线香港阿sir 这样对同僚说</p>		<p>太子831 - 速龍小隊衝落太子站月台 拘捕多人 車廂內多人頭破血流 有人掩著後腦</p> <p>太子831 - 警指有黑衣人示威者更衣喬裝成 市民 三名身穿「救護」反光衣的人要面壁站立</p> <p>香港 91 中環碼頭、機場、東涌現場直播</p> <p>831 銅鑼灣 - 警方銅鑼灣一帶驅散示威者 警員迫入維園 在公廁附近再制服至少兩人 -</p>
<p>9月2日</p>	<p>香港特区政府和警方强烈谴责暴力行径</p> <p>香港逾千所大中小学校迎来开学日</p>	<p>西方媒体的驻华记者，请别假装看不到这段视频！</p> <p>大快人心！香港市民街头怒怼陈方安生</p>		<p>屯門、天水圍、大圍、田心警署現場直播 - 20190901</p> <p>92 旺角現場直播 - 20190902</p>
<p>9月3日</p>	<p>香港止暴制乱不容动摇</p>			<p>直播 903 太子、旺角警署、九龍灣現場</p>
<p>9月4日</p>	<p>香港各界：止暴制乱是当前最迫切的任务</p> <p>香港各界谴责暴力行径呼吁恢复秩序</p>			<p>903 九龍灣 - 有人快閃堵路警九龍灣登巴士截查 有在青衣上車的乘客被查問後獲放行</p> <p>直播太子警署現場 - 香港</p>
<p>9月5日</p>	<p>香港各界呼吁聚焦经济发展 民生改善</p>			<p>直播寶琳、旺角警署現場</p> <p>林鄭見記者 - 香港新聞 - 有線直播</p> <p>民間記者會 - 香港</p>

9月6日	香港各界呼吁团结一致止暴制乱	【这一幕在香港早该出现了】香港市民协助警员制服暴徒		
9月7日	香港各界呼吁尽快止暴制乱 恢复正常 秩序			直播東涌、機場、太子現場 直播將軍澳、沙田、旺角、太子現場 - 20190907 & 0908 Live
9月8日		香港金紫荊廣場舉行隆重升旗儀式		直播旺角、太子、黃埔、銅鑼灣、金鐘、 中環現場 - 20190908 Live
9月9日	香港各界呼吁凝神聚力共谋发展			907大埔墟站男學生被警棍打 有線新聞 翻看事發前片段 銅鑼灣 908 - 警員銅鑼灣多次施放催 淚彈 驅散 差點擲中在場記者 908 旺角 - 旺角警署警員發射布袋 彈有人受傷 一名女子懷疑腳部中彈 受傷
9月10日		香港 14 岁少女怀孕，被教唆慰安“义士”、吸食大麻 香港市民郭先生：我买尿片给我女儿啊		
09月12日		暖心！光头警长收到美心月饼 习近平：事实证明，“一国两制”是完全行得通、办得到、 得人心的！ 香港市民“快闪”唱国歌！高喊支持香港警察		太子831 - 港鐵無公開 831 拍到警察 8 分鐘畫面
09月13日		光头刘 sir 发来中秋祝福		
9月14日				九龍灣淘大商場、天水圍直播現場 - 20190914 Live*
9月15日		【提问】打败乱港分子的最快方法？【答】摘掉他们的面罩， 秒怂！		北角、銅鑼灣、炮台山、灣仔、政總 外、 金鐘、中環 915 - 港島直播現場
9月16日				北角915 - 炮台山有人持摺椅長棍追 打黑衣人 北角道有穿黑衣的年輕人 與白衣的 中年人打架(視聽制限)

9月18日		陈百祥: 在美国, 警察早开枪二十多次了		
9月19日	国际锐评: 美国政客为“反中乱港”分子站台的图谋绝不会得逞	速转! 香港暴徒名单, 摘下他们的面具!		
9月21日				屯門、屯門市中心、屯門政府合署、屯門杯渡路 921 現場直播
9月22日				將軍澳、太子、旺角、元朗 921 & 922 直播現場 - 20190921 & 0922 Live
9月23日				沙田922 - 有人踐踏國旗 破壞港鐵站及商場設施 - 20190922 (視聽制限) 太子站有人聚集警發射布袋彈驅散 有最少五名蒙面的人手持伸縮警棍與警員一起追捕
9月24日				元朗清場警疑後巷踢男子 警方: 片段只見到警員踢向黃色物體籲拍片人站出來
9月26日	全国人大外事委员会就美国国会参众两院外委会审议通过“2019年香港人权与民主法案”发表声明 国务院港澳办发表声明: 敦促美停止粗暴干涉香港事务 国际锐评 美方干涉香港事务损人害己	香港警嫂: 希望每个警察都能平安回家		沙田站有人聚集 防暴警察驅散制服至少兩人 - 20190926 林鄭月娥、聶德權、劉江華、陳肇始、邱騰華出席首場社區對話現場直播 - 灣仔伊利沙伯體育館 灣仔伊利沙伯體育館附近一帶現場直播 - 20190926 Live
9月27日				首場特首對話會 - 林鄭承認離地、與市民Disconnect 首披露停用新屋嶺 重申不成立獨立調查委員會
9月28日		【“光头警长”的心愿单】期待看火箭、坦克, 想登长城、吃烤鸭… 【香港女警】陀枪师姐之勇敢的心		金鐘、中環、政總、夏慤道、龍和道、添馬公園現場直播 - 20190928 Live 銅鑼灣、灣仔現場直播 - 20190928 Live

9月29日			<p>警方在多區查車 稱懷疑有人非法集會</p> <p>929 灣仔、金鐘、政總、銅鑼灣現場 直播實況 - 20190929 Live</p> <p>929自發遊行爆衝突 警員荷裝示威者開真槍 警方發射橡膠子彈 外籍記者頭部受傷</p> <p>929 衝突據悉警方拘捕過百人 自發遊行爆衝突、金鐘篇</p> <p>929 灣仔入夜火頭處處 警民衝突不斷</p> <p>929 銅鑼灣 - 自發遊行爆衝突</p>
9月30日			<p>929 銅鑼灣、灣仔有人被圍毆 的士遭破壞 - 20190929</p>
10月1日			<p>直播警務處處長盧偉聰會見傳媒 - 20191001Live</p> <p>荃灣開槍警員左手持另一長槍 開槍後沒即時查看學生傷勢</p>
10月2日			<p>大圍、黃大仙、荃灣、屯門、銅鑼灣 直播現場</p>
10月4日	<p>香港訂立《禁止蒙面規例》 5日生效</p> <p>国务院港澳办发言人发表谈话支持香港特别行政区政府制订《禁止蒙面規例》</p> <p>香港中联办负责人就香港特别行政区政府制订《禁止蒙面規例》发表谈话</p> <p>人民日报评论员文章：禁止蒙面 止暴制乱</p>		<p>多區集會聲援中槍青年 - 防暴警多個車站戒備 大埔墟、牛頭角、觀塘站關閉</p> <p>林鄭月娥與司局長見記者直播現場 - 20191004 Live</p> <p>旺角、土瓜灣、香港仔、銅鑼灣、元朗、大圍、荃灣、中環、沙田直播現場 - 20191004 Live</p>
10月5日			<p>元朗有休班警開槍 14歲男子左大腿受傷；警方：警員被多人圍毆、兩度被汽油彈襲擊</p> <p>港鐵指示示威者破壞升級 關站是逼不得已</p> <p>深水埗、旺角、中環、灣仔、銅鑼灣、上水直播現場 - 20191005 Live</p> <p>旺角、元朗、太子、天水圍、小西灣、大埔直播現場 - 20191005 Live</p>

10月6日	香港各界支持订立《禁止蒙面规例》		禁止蒙面法	持刀白衣男衝突受傷 消防員沒拯救; 副消防處長: 無論甚麼人都要盡力救 元朗、天水圍堵路、破壞圍欄 十八鄉 委會大樓受破 九龍塘、旺角、銅鑼灣、荔景、金鐘、太 子、中環、灣仔、尖沙咀直播現場
10月7日		港鐵車站重開後再被毀 多條路綫服 務暫停 大埔、元朗、油麻地、太古、旺角、 太子直播現場 - 20191007 Live		
10月8日	香港各界支持订立《禁止蒙面规例》			港鐵重開大部分車站; 早上繁忙時 間將軍澳馬鞍出現人龍、車龍
10月9日		香港茶餐厅勇敢“撐警”, 意外收获营业 51 年来最火爆的生 意		77人犯禁蒙面法被捕 - 記者被多次 要求脫下面罩; 警方: 實施時間短 可 惜做不到「警員訓練日 上水站關閘後現蒙面人 持疑胡椒噴 劑指向人; 警方沒回應是否警員 稱用 不同方式打擊罪案 警方就多宗受爭議事件解釋
10月10日	海外专家:《禁止蒙面规例》有助香港恢复稳定	【香港黑衣人】当街查车, 半夜查房, 引发香港市民不满		近日夜晚, 香港變成點?
10月 11 日	香港各界支持实施《禁止蒙面规例》	一封来自内地在港生的公开信		
10月 12 日		澳大利亚记者揭发恶行		沙田、太子直播現場
10月 14 日		【八大谣言】咋就那么容易信了呢?		
10月 17 日				趙紫陽 1984 年簽《中英聯合聲明》。前 秘書憶述趙: 沒有自由, 香港不成香 港
10月 19 日				大埔墟站外 19 歲男子派傳單時 被人 用生果刀割肚及頸頸; 本台記者路過 講述案發經過 水炮車向清真寺射顏色水 油尖指揮 官稱是意外 晚上派員清潔

10月21日		<p>一条对比短片告诉你香港警察有多克制，一些香港记者别再充当暴徒帮凶!</p>		
10月23日				<p>陳同佳出獄同一天 政府正式撤回 《逃犯條例》修訂草案 陳同佳刑滿出獄 兩度鞠躬道歉 陳 同佳:內心受責備 願為錯事赴台自首</p>

付表2

付表2 香港：「ケーブルニュース」頻出語（和訳）

メディア	頻度順	6月	7月	8月	9月	10月
ケーブルニュース (cable news)	1	警察	デモ参加者	デモ参加者	警察	警察
	2	デモ参加者	警察	警察	暴力防止警察	香港
	3	逃亡犯	市民	警察署	太子	改革
	4	政府	元朗	催涙ガス	プラットフォーム	男子
	5	立法	白い服	暴力防止警察	制服	消防
	6	市民	立法	施す	方向	市民
	7	示威	ガラス	男子	デモ参加者	元朗
	8	要求	警察署	市民	男子	政治
	9	集まり	胡椒	集まり	警署	希望
	10	盾	暴力防止警察	制服	催涙弾	自由

付表3

付表3 中国本土：「新聞聯播」頻出語（和訳）

メディア	頻度順	6月	7月	8月	9月	10月
新聞聯播	1	特区政府	香港	香港	香港	香港
	2	問題	暴力	暴力	発展	法規条例
	3	談話発表	法治	社会	警察側	覆面
	4	強く	維持	警察側	グレーターベイエリア	禁止
	5	反対	衝撃	支持	暴力	暴力
	6	粗暴	深刻	発展	支持	立てる
	7	事務	社会	法治	訴える	行政長官
	8	決定	守る	維持	各界の関係者	特区政府
	9	お預け	非難	デモ参加者	非難	法律に照らして
	10	修正	安定	深刻	粤港澳	支持

付表4

付表4 中国本土：「新聞聯播」タイトル頻出語（和訳）

メディア	頻度順	7月	8月	9月
新聞聯播	1	非難	呼吁	非難
	2	呼吁	非難	強く
	3	评论员	特区政府	CCTV
	4	CCTV	強く	過激
	5	強く	迎え	デモ参加者
	6	復調	新学期	突入
	7	秩序	香港	立法会
	8	新華	秩序	国务院
	9	時評	発展	香港マカオ 事務室
	10	特区政府	国際	外務省

付表5

付表5 中国本土：「共青团中央」頻出語（和訳）

メディア	頻度順	6月	7月	8月	9月	10月
共青团中央	1	香港	香港	香港	香港	香港
	2	平和	暴力	警察	暴徒	警察
	3	外務省	中国	暴力	警察	記者
	4	金鐘	アメリカ	デモ参加者	香港市民	ティー レストラン
	5	行う	非難	非難	ハゲ	勇敢
	6	状況	国際	行跡	警長	儲け物
	7	集会	強烈	暴徒	月餅	営業
	8	公然	事務	央视	車室	売れる
	9	组织	冲击	呼吁	警察隊	商売
	10	发动	立法会	支持	皆さん	黒い服

付表6

付表6 「共青团中央」コメント欄における頻出語（和訳）

メディア	頻度順	6月	7月	8月	9月	10月
共青团中央	1	アメリカ	中国	中国	香港	香港
	2	香港	香港	香港	警察	中国
	3	中国	アメリカ	のだ	中国	のだ
	4	国家	国家	アメリカ	本当に	本当に
	5	支持	のだ	支持	のだ	記者
	6	独立	イギリス	国家	おじさん	支持
	7	ない	本当に	警察	腹たつ	警察
	8	時	支持	世界	暴徒	時
	9	人民	ない	本当に	支持	ない
	10	暴動	世界	ない	滑稽	見える
	11	世界	独立	時	ない	希望
	12	コメント	時	頑張れ	見える	自由
	13	本土	腹たつ	滑稽	時	既に
	14	勢力	思う	思う	頑張れ	知る
	15	思う	国章	知る	アメリカ	国家
	16	自由	オーストラリア	保有	すでに	暴徒
	17	問題	立ち上がろう	既に	知る	アメリカ
	18	また	人民	祖国	思う	・・・すぎて言葉も出ない
	19	警察	自由	腹たつ	アドバイス	広東語
	20	滑稽	祖国	希望	希望	動画